



2025年度入学者用

学
修
要
覧
(学
部
編)

学 修 要 覧

(学 部 編)

2025 年度入学者用

立命館大学経営学部

経営学部										学科		フリガナ		
学生証 番 号										—		氏 名		

経営学部

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900 年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第 2 次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006 年 7 月 21 日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018 年 3 月 2 日制定

I. 経営学部 of 教学目標

1. 人材育成目的	2
2. 教育目標	2
3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	3
4. カリキュラム of 基本的な構成	3

II. 経営学部 of 履修について

1. 教育課程 of 編成方針（カリキュラム・ポリシー）	7
2. 教養教育	11
3. 国際経営学科	23
4. 経営学科	39
5. 科目概要	59
6. 科目ナンバリング	61
7. 外国人留学生対象日本語科目	71

III. 多様な外国語 of 学び

1. 初修外国語・既習者対応プログラム（OIC）	74
2. 団体受験について	75
3. Beyond Borders Plaza（BBP）について	76

IV. 経営学部 of 特色ある学び

1. 「Business Studies Abroad I～IV」	78
2. インテンシブプログラム	
2.1 「アジアビジネス」プログラム	80
2.2 「産学協同アントレプレナーシップ教育」プログラム	80
2.3 「会計キャリア」プログラム	81
2.4 「産官学連携事業継承教育」プログラム	81
3. 他学部受講制度	82
4. 大学院科目早期履修制度	82

V. 学部横断プログラム

1. 海外留学	86
2. 大学間単位互換制度	87

VI. 全学副専攻科目

.....	90
-------	----

VII. 学生への援助制度

1. 学生への援助制度	94
-------------------	----

VIII. 経営学部学部則

.....	95
-------	----

※この冊子に記載されている TOEIC®および TOEFL®は Educational Testing Service（ETS）の登録商標です。

※L & R は LISTENING AND READING の短縮形です。

I. 経営学部 of 教学目標

1. 人材育成目的
2. 教育目標
3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
4. カリキュラムの基本的な構成

1. 人材育成目的（立命館大学経営学部学部則第3条【教育研究上の目的に基づく】）

大学の教学理念「平和と民主主義」、経営学部の教学理念「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」に基づき以下のような人材の育成を目的とする。

1. 社会に関する広い関心を持ち、経営学の観点から、他者と共に、創造的に問題発見ならびに問題解決する人
2. 高い志をもち、失敗を恐れず、粘り強く新たな価値創造にチャレンジする精神に満ちた人
3. 社会・経済・環境の変化に応じた新たな諸課題について、深い洞察力をもち、自ら考え、行動する人。生涯学び続け、自らを変革し続ける人
4. 高い倫理観をもち、グローバルな視野で異文化を相互に理解し尊重する能力を身につけ、平和で調和のとれた多文化共生社会の実現に貢献できる人

また、経営学部経営学科は、経営学を教育研究し、それによって、高い教養と経営学の専門知識をもち、社会・経済の変化に対応して自ら考え、実践することにより未来を切り拓くチャレンジ精神に満ち、高い倫理観とグローバルな視野で異文化を相互に理解し尊重する人材を育成する。

経営学部国際経営学科は、国際経営を教育研究し、それによって、高い教養と経営学の専門知識をもち、国際社会・経済の変化に対応して自ら考え、実践することにより未来を切り拓くチャレンジ精神に満ち、高い倫理観とグローバルな視野で異文化を相互に理解し尊重する人材を育成する。

2. 教育目標

経営学部においては、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という学部教学理念のもと、グローバル化、デジタル技術の高度化、地球環境との調和、社会発展への貢献など多様化する組織の行動様式を、広く科学的、実践的に捉え、経営組織の進路を創造的に切り拓く、豊かな市民性を備えた人材を育成することを目標とする。

具体的には下記の8項目を経営学部の学生が4年間の正課・課外を通じて獲得すべき能力とする。

1. 社会・環境に関する広い関心をもち、多様な視点から、自ら考え、果敢にチャレンジし、粘り強く実践しようとする意欲と態度をもつ。
2. 教養に関する広い関心をもち、主体的に学び、豊かな市民性を備えて、他者と調和的に共創する意欲と態度をもつ。生涯学び続け、自らを変革し続ける態度をもつ。
3. 経営学の専門知識を身につけ、経営に係る諸事象を深く理解することができる。
4. 豊かな教養とグローバルな視野をもち、地域や社会の状況を多様な視点から理解することができる。
5. 経営に関する基本的な内容について、経営学の観点から正しく理解し、適切に実践することができる。
6. 経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、既成概念に拠らず問題発見及び課題解決ができる。
7. 経営に関する諸問題について、総合的かつ論理的に思考し、実践的で適切な意思決定ができる。
8. 社会や人間に関する事象について、高い倫理観と深い洞察力をもって思考し、平和で調和のとれた適切な意思決定ができる。

3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科においては、その人材育成目的の達成を通じて、教育目標に示した以下の8点の能力を身につけ、社会において活躍することを学生に対して求めている。

国際経営学科においては、その人材育成目的の達成を通じて、教育目標に示した以下の8点の能力を身につけ、国際ビジネス社会において活躍することを学生に対して求めている。

両学科とも学部則に規定する所定単位の修得をもって、教育目標の達成とみなし、学士課程学位を授与する。

〈教育目標に示した8点の能力〉

1. 社会・環境に関する広い関心を持ち、多様な視点から、自ら考え、果敢にチャレンジし、粘り強く実践しようとする意欲と態度をもつ。
2. 教養に関する広い関心を持ち、主体的に学び、豊かな市民性を備えて、他者と調和的に共創する意欲と態度をもつ。生涯学び続け、自らを変革し続ける態度をもつ。
3. 経営学の専門知識を身につけ、経営に係る諸事象を深く理解することができる。
4. 豊かな教養とグローバルな視野を持ち、地域や社会の状況を多様な視点から理解することができる。
5. 経営に関する基本的な内容について、経営学の観点から正しく理解し、適切に実践することができる。
6. 経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、既成概念に拠らず問題発見及び課題解決ができる。
7. 経営に関する諸問題について、総合的かつ論理的に思考し、実践的で適切な意思決定ができる。
8. 社会や人間に関する事象について、高い倫理観と深い洞察力をもって思考し、平和で調和のとれた適切な意思決定ができる。

4. カリキュラムの基本的な構成

経営学部のカリキュラムは、「教養科目」「専門科目」「外国語科目」の3種類から編成されています。学士の学位を取得し、卒業するためには、これらの科目について124単位以上を修得する必要があります。

「教養科目」は、経営学の専門知識以外の幅広い教養を学ぶための科目です。卒業するためには、国際経営学科では20単位以上、経営学科では24単位以上の修得が必要です。

「専門科目」は、経営学および関連分野の専門知識を学ぶための科目です。卒業するためには、国際経営学科では、68単位以上、経営学科では74単位以上の修得が必要です。ただし、経営学科については、コース選択を通じた体系的な科目履修が求められます。

「外国語科目」は、文字通り外国語を学ぶ科目です。経営学部では、英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語を学ぶことができます。語学選択の制度や必要修得単位が大きく異なりますので注意してください。

Ⅱ．経営学部の履修について

- 1．教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- 2．教養教育
- 3．国際経営学科
- 4．経営学科
- 5．科目概要
- 6．科目ナンバリング
- 7．外国人留学生対象日本語科目

Ⅱ－１

教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

はじめに

経営学部の学士課程では国際経営学科と経営学科との2学科制をとっている。また、経営学科においては、2回生次から4つのコース（「戦略」「マーケティング」「組織」「会計・ファイナンス」）に専攻する領域が分かれていく。低回生次においては基本的な経営学の学びは基礎専門科目を中心に両学科・コースに共通であり、その修得後学科・コースの展開専門科目を履修することになる。

経営学部での学修のためには、専門科目以外に外国語科目、教養科目の科目群も必須である。

いずれの学科・コースにおいても、経営学部においては、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という学部教学理念のもと、グローバル化、デジタル技術の高度化、地球環境との調和、社会発展への貢献など多様化する組織の行動様式を、広く科学的、実践的に捉え、経営組織の進路を創造的に切り拓く、豊かな市民性を備えた人材育成目的に設定した人材を育成できるように、以下のとおり経営学部の教育課程は編成され実施される。

1 回生 「学びを知る」

大学初年次においては、高校までとは異なる大学での学びそのものを知ることが必要である。そのための初年次教育として、「アカデミック・リテラシー科目」や小集団科目「基礎演習」において、はじめて大学での学び方を学び、経営学にふれ、学びのコミュニティに参画する。専門講義科目では、「総合基礎科目」として「企業と経営」「企業と会計」をまず学び、次いで後の各コースの基本科目である「マーケティング論」「経済学入門」「マネジメント論」へと進む。その後の学習の基盤となる簿記や情報リテラシーにかかわる科目も修得する。体験型の学部留学プログラム（後述のBSAI）に参加することもできる。

2 回生 「学びを広げる」

2回生は、経営学科においては、おもに企業との競争を扱う「戦略」や顧客とのかかわりを扱う「マーケティング」、人々の共通の目的のもとでのコミュニケーションやリーダーシップを検討する「組織」および企業内外の情報と資金の流れに関する「会計・ファイナンス」の4つのコースから自コースを選択し、国際経営学科とあわせて5つの系統的履修が開始される。

各学科・コースでは、自学科・コースの「コース基礎科目」等の「基礎専門科目」を中心に学ぶが、他学科・コースはまったく別の専攻ではなく、相互に科目を共有し学び合うことになる。「総合基礎科目」と「コース基礎科目」とをあわせて「コア科目」とし、全員が履修すべきものとする。また、法学や経済学系の「学部共通科目」によって隣接領域の基礎的知識を広げる。

さらに学科・コース横断的な「インテンシブ・プログラム」や学部独自留学プログラムも本格的に開始する。「インテンシブ・プログラム」は、「産学協同アントレプレナーシップ」「アジアビジネス」「会計キャリア」および「産官学連携事業継承教育プログラム」の4プログラムからなる。本学部の特色を活かしたこれら教育プログラムを自らの選択で開始することができる。

また、全学の留学プログラムとともに、経営学にかかわる学習内容を中心とした本学部独自のプログラムに参加することもできる。BSA（Business Study Abroad）として、I（イニシエーション）、II（1 Semester）、III（インターンシップ）、IV（1 年間）の区分があり、自らの学修目的・期間・応募条件および、英語・その他語種に応じた留学の機会がある。

3 回生 「学びを深める」

「コア科目」による基礎的専門知識の上に、各学科・コースの「展開専門科目」を系統的に履修し、4回生次にかけて自らの専門性を深める。

国際経営学科では、英語開講科目によるグローバルな学びの形式とともに、異文化の中での経営学を総合的に学ぶ。

経営学科の「戦略」コースでは「戦略経営論」等の戦略分野、「マーケティング」コースでは「製品開発論」等のマーケティング分野を学ぶ。「組織」コースは、「経営組織論」等の企業組織分野を学ぶ。「会計・ファイナンス」コースでは、「財務会計論」等の会計分野と「証券投資論」等のファイナンス分野を学ぶ。これら各コース内の一つの分野を深めつつ、他の関連分野も学んでいく。

小集団科目「専門演習」（ゼミ）の学びのコミュニティを主体的に形成し、特定のプロジェクトへの参加、問題発見・解決の取組、実際の人々やコミュニティとの交流などを通じた実

4 回生 「学びをまとめる」

外国語の修得

教養科目などの幅広い 学び

実践的な学習方法である PBL（Project/Problem/People-Based-Learning）などによって自らの専門的な研究テーマを社会の中でアクティブに深める。

これまでの経営学部での学びをまとめる。自学科・コースの展開科目の履修を中心に専門性を身につけつつ、PBL などを通じたゼミのコミュニティにおいて担当教員の指導のもと、これまで修得した能力と知識に基づいて自主的に研究テーマおよび研究計画を設定してそれを実行し、その成果として「卒業論文」または「ビジネスレポート」を経営学部の学びの集大成として作成する。

「外国語科目」では、英語および初修外国語が開講される。英語については、読み・書き・聴き・話す 4 技能の総合的段階的な発展を図る。おもな英語科目として、まずスキルと教養を中心とした EGP（English for General Purposes）で基礎を学び、次いで専門教育と関連させた「Business English」などの ESP（English for Specific Purposes）を経て、将来の国際ビジネスや学術的活動のための EOP/EAP（English for Occupational Purposes/English for Academic Purposes）へ系統化に進むことになる。これら実用・教養・専門のバランスのとれた英語学習によって「ビジネス社会で必要とされる国際的コミュニケーション能力」が涵養される。英語の到達度は TOEIC[®]（団体受験）によって測定され、学力に応じて選択科目が設定される。

国際経営学科における必修の外国語は、英語のみを学ぶ「英語コース」、英語と選択した初修外国語を学ぶ「2 言語英語重視コース」、あるいは「2 言語初修重視コース」を入学前に選択する。英語においては、上記の段階のプログラムを全面的に展開し、とくに各種留学プログラムへの参加を強く推奨する。3 回生以上開講の「プロジェクト英語」において、経営学に関する内容を英語で十分学べることを目標に、留学の成果も活用し高度でアクティブな英語の継続学習をめざす。2 言語コースでは初修外国語としてフランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語が開講され、このうちから一語種を選択する。

経営学科における必修の外国語は、英語のみを学ぶ「英語コース」、英語と選択した初修外国語を学ぶ「2 言語コース」を入学前に選択する。初修外国語としてフランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語が開講され、このうちから一語種を選択する。各語種とも基礎から展開に進み、2 回生以上では副専攻（選択初修語）として進んだトピックを学ぶ。各回生後期に到達度の検証が行われる。

「教養科目」は全学で共通の「立命館スタンダード」として、2020 年度より新設された「立命館科目」および A 群から E 群の科目のグループから構成される。「立命館科目」は「立命館大学生」として学びをとおして成長し、社会の発展に貢献することのできる人間育成を目的とした科目群である。A 群は学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識をとおして得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群であり、7 つの分野からなる。また、B 群は「国際教養科目」（英語開講教養科目や海外留学科目）、C 群は「社会で学ぶ自己形成科目」（キャリア教育科目・サービスラーニング科目）、D 群は「スポーツ・健康科目」（スポーツ実習を含む）、E 群は「学際総合科目」（「教養ゼミ」などを含む）であり、現代社会に必要な学際的・総合的な知の構築をめざしつつ、学生の主体的な授業参加を重視する科目群である。これらの科目から自らの関心や目的にしたがって計画的に履修を進める。

Ⅱ－2

教養教育

1. 教養科目（2025 年度入学生）

1.1 本学の教養教育の理念および目標

本学の教養教育は、総合大学の特長を活かして、専門教育と往還しながら自らの専門性を相対化し、物事を総合的に捉える視野を身につけ、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方を涵養し、主体的かつ自律的な思考や行動、ならびに他者との対話や協働ができる力の育成を目指しています。

この理念のもと、3つの目標を掲げています。

〈教養教育の目標〉

【目標Ⅰ】 知識・理解	学部固有の専門教育とは異なる知的体系や方法論による学習によって、自らの専門性を相対化し考察する能力の習得を目指す。
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	豊かな教養と深い洞察力の獲得によって、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方の涵養を目指す。
【目標Ⅲ】 態度・行動	他者と実践をともにする中で多様な価値観を踏まえて主体的に学習する姿勢を身につけ、現代社会を切り拓く力の育成を目指す。

1.2 教養教育の到達目標とカリキュラム・マップについて

1.1 で掲げた3つの目標に対応する、より具体的な到達目標を定めています。各科目がどの到達目標と合致しているかを示したのがカリキュラム・マップです。バランスよく履修できるようにカリキュラム・マップを活用してください(1.6教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照)。

〈教養教育の目標および到達目標〉

目標	到達目標
【目標Ⅰ】 知識・理解	【Ⅰ-a】 知識 幅広い知識を習得し、自らの専門や日常生活に活用できる
	【Ⅰ-b】 科学的考察力 科学的方法論に基づき、事象を考えることができる
	【Ⅰ-c】 総合的解釈力 物事を総合的に考えることができる
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	【Ⅱ-d】 洞察力 論理的・批判的に事象を洞察することができる
	【Ⅱ-e】 指針の確立 倫理観・正義感を持ち、多様な選択肢から適切な意思決定を行うことができる
	【Ⅱ-f】 創造性 既成の概念に拠らず、創造的に考えることができる
【目標Ⅲ】 態度・行動	【Ⅲ-g】 多様性・国際性 多様な価値観が異なる意味、対立する意味を考えることができる
	【Ⅲ-h】 自己表現力 問題を発見し、その解決に向けて自分の考えを他者へ伝えることができる
	【Ⅲ-i】 共創する力 他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取ることができる

1.3 教養科目の群・分野構成と卒業に必要な単位数

〈経営学部〉

科目	群	分野、科目区分など	卒業に必要な単位数
教養科目	立命館科目	—	国際経営学科： 20 単位以上
	教養基盤科目（A 群）	第 1 分野 思想と人間	
		第 2 分野 現代と文化	
		第 3 分野 芸術と創造	
		第 4 分野 社会・経済と統治	
		第 5 分野 世界の史的構成	
		第 6 分野 自然・科学と人類	
		第 7 分野 数理と情報	
	国際教養科目（B 群）	国際教養科目区分	経営学科： 24 単位以上
		異文化交流科目区分	
		海外留学科目区分	
	社会で学ぶ自己形成科目（C 群）	キャリア教育科目	
		サービスラーニング科目	
	スポーツ・健康科目（D 群）	—	
	学際総合科目（E 群）	—	

1.4 各科目群の概要

（1）立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第3セメスターまで）で1科目以上履修することが望ましいです。

13の科目から構成される立命館科目は、次の3つの特徴をもって構成されています。

第1に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学とは何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第2に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第3に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々のいのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

（2）教養基盤科目（A 群）

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端的知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

教養基盤科目（A 群）は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の7つの分野から成り立っています。

第1分野 思想と人間	哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけでなく、21世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。
---------------	---

第2分野 現代と文化	人間を政治、経済、社会、文化の4側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。
第3分野 芸術と創造	人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。
第4分野 社会・経済と統治	この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいっそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を解明します。
第5分野 世界の史的構成	現代社会を理解する際の基礎的方法のひとつは、世界を歴史的に把握することです。この分野は、社会科学的な発想を基調としつつ人文科学の見方も包含して、社会を歴史的な観点から考察します。この分野では、分野全体の基礎概念等を説明する科目によって、歴史を見る際の見方と、世界を地域の観点から眺める際の見方を学習します。そして、それを基に世界を大きく5地域（日本、日本を除くアジア、ヨーロッパ、アメリカ、そしてイスラーム圏）に区分して、それぞれの主要課題を考察します。さらに、こうした理解に加えて本学に入学した学生諸君が身近な視点から歴史的存在としての自己の認識を深めることができるような科目を配置しています。
第6分野 自然・科学と人類	この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。
第7分野 数理と情報	この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理的世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

(3) 国際教養科目 (B 群)

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通した幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目 (B 群) は、「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

国際教養科目区分	人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた20～35人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。
-----------------	---

異文化交流科目区分	文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。
海外留学科目区分	主に、半年から1年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

（４）社会で学ぶ自己形成科目（C 群）

実社会（企業・公益団体・地域社会等）との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士との対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

キャリア教育科目	キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関わるか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関わりの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。 1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望まれます。
サービ斯拉ーニング科目	主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

（５）スポーツ・健康科目（D 群）

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに大きな役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

（６）学際総合科目（E 群）

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」、3 回生以上を対象とする「超領域リベラルアーツ」から成り立っています。

1.5 教養科目における 各科目の位置付け について

配当回生に基づき、教養科目を「導入」「形成」「先端」に位置付けています（1.6 教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照）。履修計画を立てる際に参考にしてください。

導入	低回生に受講を強く推奨する科目です。配当回生は、1 回生のみ、もしくは、1・2 回生とし、3 回生以上の履修は認めませんので、注意してください。具体的には以下の科目です。 ■ 1 回生のみ：「社会と学ぶ課題解決」 ■ 1・2 回生：「日本の近現代と立命館」「ピア・サポート論」「メディアと図書館」「学びとキャリア」「国の行政組織」「Cross-cultural Encounters 1」「地域参加学習入門」「現代社会とボランティア」
形成	教養教育の多様性を実現する科目です。「導入」「先端」以外の科目は全て「形成」です。配当回生は 1 回生以上、もしくは、2 回生以上です（一部例外あり）。
先端	学部での専門教育を経た 3 回生以上を対象とする科目です。 具体的には、人類が直面する課題に対し、学問分野の枠にとらわれず、分野の壁を越えた先進的・学際的・学融合的アプローチを行う科目「超領域リベラルアーツ」のみです。

1.6 教養科目一覧およびカリキュラム・マップ

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）								
							Ⅰ・a 知識	Ⅰ・b 科学的考察力	Ⅰ・c 総合的解釈力	Ⅱ・d 洞察力	Ⅱ・e 指針の確立	Ⅱ・f 創造性	Ⅲ・g 多様性・国際性	Ⅲ・h 自己表現力	Ⅲ・i 共創する力
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	講義	1・2回生	導入	◎	○	○	◎			○		
		ピア・サポート論	2	講義	1・2回生	導入			○		○		○	○	◎
		ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○	○	◎		○
		メディアと現代文化	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎		○	○	○	
		市民と政治	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		◎				
		日本国憲法	2	講義	1回生以上	形成	○			○	◎				
		災害と安全	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○		
		歴史観の形成	2	講義	1回生以上	形成		◎	○	○	○		○	○	
		科学・技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	◎		○	◎	○	
		現代平和論	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○
		戦争の歴史と思想	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	
		平和人権フィールドスタディ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	◎	○		◎		○
教養基盤科目（A群）	第1分野 思想と人間	哲学と人間	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○		○	○	○	
		人間性と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○		○		
		心理学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○		○		○		
		論理と思考	2	講義	1回生以上	形成		◎	○		○			◎	
		社会思想史	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○	◎	○	○		
		科学技術と倫理	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○	◎	
		宗教と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			○		○
		メンタルヘルス	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○					
		（留）日本の文化・地理・歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎		
	第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	講義	1・2回生	導入	◎		○	○			○		○
		社会学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○		○	○	○	◎
		文化人類学入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎			◎		
		文学と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		◎	○		◎		○	
		現代の教育	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○				
		世界の言語と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎		
		世界と日本の食文化	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎		
		観光学	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	◎			○	○	○
		京都学	2	講義	1回生以上	形成	○		◎				○		
		（留）日本語学	2	講義	2回生以上	形成	○	◎							
	第3分野 芸術と創造	美と芸術の論理	2	講義	1回生以上	形成	○		◎	◎			○		
		音楽原論	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○					
		映像と表現	2	講義	1回生以上	形成	◎					○			
		映像メディア実践入門	2	講義	1回生以上	形成						○		○	◎
		文芸創作論	2	講義	1回生以上	形成	○					◎	○	◎	○

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	担当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）								
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i
教養基盤科目（A群）	第4分野 社会・経済と統治	国の行政組織	2	講義	1・2回生	導入	○		◎						○
		現代社会と法	2	講義	1回生以上	形成	○		○		◎				
		経済と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
		現代日本の政治	2	講義	1回生以上	形成	○			◎	○				
		現代の国際関係と日本	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		日本経済概説	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		現代の世界経済	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		社会と福祉	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		ソーシャルデザイン論	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		（留）日本の社会・政治	2	講義	1回生以上	形成	◎		○		○		○		○
		（留）日本の経済・経営	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
	第5分野 世界の史的構成	エアスタディ入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○			○		
		新しい日本史像	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○	○	
		中国の国家と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			◎		
		東アジアと朝鮮半島	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		ヨーロッパの歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		アメリカの社会と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		イスラーム世界の多様性	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
	第6分野 自然・科学と人類	科学的な見方・考え方	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	○		
		宇宙科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		地球科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		生命科学（分子と生命）	2	講義	1回生以上	形成	◎	○							
		生命科学（生物と生態系）	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		材料と化学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		現代環境論	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○				
		科学と技術の歴史	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○		
		生命科学と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○				○		
		近現代の科学技術	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎		○	◎	○	○		
		（留）日本の自然・科学技術	2	講義	1回生以上	形成	○	◎			○	○	◎		
	第7分野 数理と情報	数理の世界	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報の数理	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○			
		情報技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	○		○
		統計学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	◎	○	○		○	
		データサイエンス・AI基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
		データエンジニアリング基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	担当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）								
							Ⅰ・a 知識	Ⅰ・b 科学的考察力	Ⅰ・c 総合的解釈力	Ⅱ・d 洞察力	Ⅱ・e 指針の確立	Ⅱ・f 創造性	Ⅲ・g 多様性・国際性	Ⅲ・h 自己表現力	Ⅲ・i 共創する力
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Liberal Arts Seminar	2	演習	1 回生以上	形成			○				◎	○	
		Introduction to Law	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Modern World History	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○
		Japan and the West	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○
		Introduction to Economics	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Kyoto and the Japanese Arts	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		Special Lecture	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		Introduction to Linguistics	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Anthropology	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Natural Science	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○	○	○		○		
		Introduction to Humanities	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to the United Nations	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		Introduction to Peace Studies	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○
		Introduction to Gender Studies	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Computational Linguistics	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	◎	○			◎		
		History of Computing	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
		Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
		Understanding Language	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Computers in Education	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Language in Politics	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Introductory Course to International Project Development	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Understanding Visual Culture	2	講義	1 回生以上	形成	◎		○				○		
		Introduction to Food Culture	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○		○	◎	◎	◎
		Cross Border Policy Issues	2	演習	1 回生以上	形成	○		○		○	○	◎	◎	◎
		Playing with Playfulness	2	講義	1 回生以上	形成	○		○			○	◎	○	◎
		Introduction to Global Justice	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○		○		◎		○
		Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○		○	○	◎		◎
	異文化交流科目区分	Cross-cultural Encounters 1	2	演習	1・2 回生	導入			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Encounters 2	2	演習	1 回生以上	形成			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Studies	2	講義	1 回生以上	形成	○					◎	◎		◎
		Cross-cultural Seminar	2	演習	1 回生以上	形成	○					◎	◎		◎
		Non-verbal Communication	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○		○	◎	○	◎

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）								
							Ⅰ・a 知識	Ⅰ・b 科学的考察力	Ⅰ・c 総合的解釈力	Ⅱ・d 洞察力	Ⅱ・e 指針の確立	Ⅱ・f 創造性	Ⅲ・g 多様性・国際性	Ⅲ・h 自己表現力	Ⅲ・i 共創する力
国際教養科目（B群）	海外留学科目区分	Academic Skills 1	2	演習	1 回生以上	形成						○	◎	○	
		Academic Skills 2	2	演習	1 回生以上	形成						○	◎	○	
		Global Engineer Program	2	講義	1～3 回生	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）				○		○	◎	◎	◎
		University of Hawaii Program	2	講義	2・3 回生	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）				○		○	◎	◎	◎
		グローバル社会の体験と理解	2	実習・講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）							◎		
		Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）	2	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						◎	○	
		Global Project-Based Learning	2	講義・実習	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）		○	○	○	○		◎	○	○
		Area Study I	2	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○				◎		
		Area Study II	4	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○	○		○	◎		
		Global Study	4	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○	○	○	○	○	○	◎		
		Academic Communication（Online Learning）	2	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						◎	○	○
		Area Study（Online Learning）	2	講義	1 回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○			○	◎		
社会で学ぶ自己形成科目（C群）	キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	1 回生のみ	導入				◎		○	○	◎	◎
		学びとキャリア	2	講義	1・2 回生	導入			◎	○			◎	◎	○
		仕事とキャリア	2	講義	2 回生以上	形成			◎	○			◎	◎	○
		コーオプ演習（理論）	2	講義	2 回生以上	形成			◎	○			○	◎	◎
		コーオプ演習（実践）	2	演習	2 回生以上	形成				◎		○	○	◎	◎
	ラーニング科目 サービス	地域参加学習入門	2	講義	1・2 回生	導入	○	○	○		◎	○	◎	○	○
		現代社会とボランティア	2	講義	1・2 回生	導入	○	○	○		◎	○	◎	◎	○
		現代社会のフィールドワーク	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○		◎	○	○	◎	◎
		シチズンシップ・スタディーズ	2	演習	2 回生以上	形成		○	○	○	◎	○	◎	○	◎

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）								
							Ⅰ・a 知識	Ⅰ・b 科学的考察力	Ⅰ・c 総合的解釈力	Ⅱ・d 洞察力	Ⅱ・e 指針の確立	Ⅱ・f 創造性	Ⅲ・g 多様性・国際性	Ⅲ・h 自己表現力	Ⅲ・i 共創する力
スポーツ・健康科目 (D群)		スポーツの歴史と発展	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
		スポーツと現代社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○			○		
		スポーツのサイエンス	2	講義	1回生以上	形成	○	◎							
		現代人とヘルスケア	2	講義	1回生以上	形成	◎	○							
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎
学際総合科目 (E群)		教養ゼミナール	2	演習	1回生以上	形成			○	○	○	○	◎	◎	◎
		異文化間テーマ演習	2	演習	1回生以上	形成				○			◎	○	
		超領域リベラルアーツ	2	講義	3回生以上	先端	○	◎	◎	◎		○	○	○	○
		単位互換科目	1・2・4	講義	1回生以上		—								
		単位互換科目（遠隔授業）	1・2・4	講義	1回生以上		—								
		特殊講義（総合）	1～4	講義	1回生以上		—								
		APU 交流科目	2	講義	2回生以上		—								

(注意事項)

- ・科目名に「(留)」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で正規留学生・短期留学生のみが受講できます。
- ・国際教養科目（B群）は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関わり度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけている必要があります。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。

〈英語開講の授業における言語レベル〉

Stage	TOEIC® LISTENING AND READING テスト	TOEFL ITP® テスト	TOEFL iBT® テスト	IELTS
Stage1	380 未満	400 未満	32 未満	4.5 未満
Stage2	380～580	400～480	32～55	4.5～5.0
Stage3	580～630	480～530	55～71	5.0 以上
Stage4	630 以上	530 以上	71 以上	5.5 以上

* TOEIC® および TOEFL® は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

- ・海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

1.7 データサイエンス +R プログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス +R プログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

(1) データサイエンス +R プログラム (基礎)

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1 回生以上	2 単位

(2) データサイエンス +R プログラム (応用基礎)

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI 基礎	1 回生以上	2 単位
データエンジニアリング基礎	1 回生以上	2 単位

※上記 2 科目の単位取得により応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。

・右の QR コードから、アクセスできます。



・manaba+R からは、

「経営学部生のページ」→「トップページ」

→「経営学部の履修」→「教養科目の履修」をクリック。

Ⅱ－3

国際経営学科

1. 国際経営学科の学修のすすめ方

1.1 卒業に必要な科目・単位の履修①

卒業するためには、下記の通り履修し、124 単位以上修得しなければなりません。

科目分野		必要単位	備 考
教養科目	立命館科目・A 群～E 群	20 以上	大学間単位互換科目を含む
外国語科目	英語コース	30 以上	TOEIC® L & R テスト／TOEFL® テストのスコアにより履修科目に区別があります。
	2 言語英語重視コース		
	2 言語初修重視コース		
専門科目		68 以上	専門科目 68 単位のうち、自学科科目 6 科目 12 単位以上の修得が必要です。 総合基礎科目のうち、3 科目 6 単位以上の修得が必要です。
自学科科目		12 以上	
合 計		124 以上	

※「4 回生時以上において 4 単位以上修得」しなければ卒業することはできない。

※卒業論文およびビジネスレポートの履修については、P. 31～32 を参照してください。

(1) 大学間単位互換科目は教養科目として認定します（詳細は「V. 学部横断プログラム」参照のこと）。

(2) 「基礎演習」、外国語科目、総合基礎科目についてはクラスが指定されています。受講登録は事務室で行いますので自身で登録する必要はありません（詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」参照）。

※「基礎演習」については 1 回生のみ履修可能

(3) 他学部の専門科目を修得した場合、10 単位を上限に他学科分野の専門科目として認めます。

1.2 卒業に必要な科目・単位の履修②

卒業に必要な単位（124 単位）の内、「4 回生時以上において 4 単位以上修得すること」が卒業に必要な条件として設けられています。**3 回生終了時点で、卒業に必要な単位数を修得しても、「4 回生時以上において 4 単位以上修得」しなければ、卒業することはできません。**

1.3 卒業見込証明書発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、学内の証明書自動発行機およびコンビニエンスストアのマルチプリント機で発行できます。詳細については、大学ホームページ（大学ホームページトップ>在学生の方>証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について）で確認してください。

【発行基準】

①第 7 学期以降であること

※「履修状況確認」画面に表示されている「現セメスター」が、7 セメスター以降であること。

（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること。（休学中は発行できません）

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日 (下記参照)
第 7 学期（7 セメスター） 学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上	翌学期卒業日
第 8 学期以降（8 セメスター以降） 各学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上	当学期卒業日

* システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3 月 20 日

1.4 年間受講登録上限
単位数

年間受講登録上限単位数	
回 生	登録単位数
1 回 生	44
2 回 生	44
3 回 生	48
4 回生以上	48

年間受講登録上限単位数	
含まれるもの	含まれないもの
・ 通常科目 ・ 専門演習Ⅰ～Ⅳ、卒業論文 ・ ビジネスレポート ・ 他学部受講科目 ・ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ	・ プロジェクト研究（G B L 型・産学共創型） ・ テクニカル・ビジット ・ インターンシップ・コーオペ教育科目 ・ 大学コンソーシアム京都単位互換科目（年間2科目上限） ・ 留学帰国時に単位認定される科目（プログラムによって年間受講登録上限単位数に含まれる場合もありますので参加するプログラムの募集要項等で必ず確認してください） ・ 自由科目

※各年度により、年間受講登録上限単位数に含まれない科目が変更されることがあるので、詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

1.5 教養科目

教養科目は、立命館科目・A群～E群の各分野からなり、最低20単位以上修得しなければなりません。それぞれの科目群・分野からバランスよく履修してください。

- (1) 「スポーツ方法実習」の受講登録については、「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。
- (2) 各科目の配当回生は、カリキュラム科目配置表（P. 36～37）で確認してください。
- (3) 「単位互換科目」は6単位を上限として卒業に必要な単位に含めることができます。

1.6 外国語科目

1. 外国語履修コースについて

★「外国語学習のてびき」も必ず参照してください。

国際経営学科では、入学手続き時に英語コース、2言語英語重視コース、2言語初修重視コースのいずれかを選択し、それぞれ定められた履修方法に従い、卒業に必要な単位を修得します。

※なお、語学力によってAAパターンからBBパターンまで、4種類の履修方法がありますが、1回生時は全員共通です。一度選択したコース・語種は変更することができません。

※AAパターンからBBパターンについて、スコアの基準は「外国語学修のてびき」を参照してください。

※「2言語初修重視コース」から「2言語英語重視コース」への変更については、P. 30を参照してください。

英語コース【AAパターン】

	1 回 生		2 回 生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	プロジェクト英語②	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2		
	英語 L1	英語 L2	選択英語② * 12 単位以上選択必修		(選択英語②)	
	英語 S1	英語 S2				
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
必修単位数	6 単位	6 単位	2 単位	2 単位	2 単位	0 単位
			* 12 単位（選択必修）			

*「選択英語」科目は、2回生時に12単位履修（各学期6単位）することが望ましいが、3回生以降でも履修可能。

英語コース【AB パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	英語実習 1	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	英語実習 2	
	英語 L1	英語 L2	選択英語② * 12 単位以上選択必修		(選択英語②)	
	英語 S1	英語 S2				
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
必修単位数	6 単位	6 単位	2 単位	2 単位	2 単位	0 単位
			* 12 単位 (選択必修)			

*「選択英語」科目は、2 回生時に 12 単位履修（各学期 6 単位）することが望ましいが、3 回生以降でも履修可能。

英語コース【BA パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	プロジェクト英語②	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	選択英語② * 8 単位以上選択必修	
	英語 L1	英語 L2	資格英語演習 B1	資格英語演習 B2		
	英語 S1	英語 S2	Step-up English 1	Step-up English 2		
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
必修単位数	6 単位	6 単位	4 単位	4 単位	2 単位	0 単位
					* 8 単位 (選択必修)	

英語コース【BB パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	英語実習 1	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	英語実習 2	
	英語 L1	英語 L2	資格英語演習 B1	資格英語演習 B2	資格英語演習 B3	資格英語演習 B4
	英語 S1	英語 S2	Step-up English 1	Step-up English 2	Step-up English 3	Step-up English 4
	英語 CALL1	英語 CALL2			選択英語② * 4 単位以上選択必修	
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
必修単位数	6 単位	6 単位	4 単位	4 単位	4 単位	2 単位
					* 4 単位 (選択必修)	

※②表記科目は 2 単位科目、それ以外は 1 単位科目

※（ ）科目は選択科目のため任意受講です。

※履修可能な選択英語科目はカリキュラム表の通りです。なお、選択英語科目を履修するためには受講の前年度までにミニマム基準の TOEIC® L&R テスト 550 点以上 / TOEFL® テスト 480 点を取得することが必要です。1 回生あるいは 2 回生で一度この受講条件を満たせば、卒業時まで受講することが可能です。ただし、3 回生時に受講基準を満たしても、4 回生で選択英語科目を受講することはできませんので、2 回生終了時までには必ず基準を満たすようにしてください。

※なお、「英語コース」BB パターン履修者は、ミニマム基準未満でも 3 回生になって 2 科目選択英語を履修することができます。

2 言語英語重視コース【AA パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	プロジェクト英語②	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2		
	英語 L1	英語 L2	選択英語② * 6 単位以上選択必修		(選択英語②)	
	英語 S1	英語 S2				
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
初修	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②	(選択初修外国語②)			
	初修基礎 2	初修展開 2	* 自由科目（要卒外）として履修可能			
日本語 (留学生 のみ)	日本語Ⅶ 文章表現 a	日本語Ⅶ 文章表現 b	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 a)	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 b)		
	日本語Ⅶ 読解 a	日本語Ⅶ 読解 b	(日本語Ⅶ キャリア日本語 a)	(日本語Ⅶ キャリア日本語 b)		
	日本語Ⅶ 聴解口頭 a	日本語Ⅶ 聴解口頭 b				
【英語＋初修】 【英語＋日本語】 必要単位数	9 単位	9 単位	2 単位	2 単位	2 単位	0 単位
			* 6 単位（選択必修）			

* 「選択英語」科目は、2 回生時に 6 単位履修することが望ましいが、3 回生以降でも履修可能。

2 言語英語重視コース【AB パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	英語実習 1	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	英語実習 2	
	英語 L1	英語 L2	選択英語② * 6 単位以上選択必修		(選択英語②)	
	英語 S1	英語 S2				
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
初修	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②	(選択初修外国語②)			
	初修基礎 2	初修展開 2	* 自由科目（要卒外）として履修可能			
日本語 (留学生 のみ)	日本語Ⅶ 文章表現 a	日本語Ⅶ 文章表現 b	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 a)	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 b)		
	日本語Ⅶ 読解 a	日本語Ⅶ 読解 b	(日本語Ⅶ キャリア日本語 a)	(日本語Ⅶ キャリア日本語 b)		
	日本語Ⅶ 聴解口頭 a	日本語Ⅶ 聴解口頭 b				
【英語＋初修】 【英語＋日本語】 必要単位数	9 単位	9 単位	2 単位	2 単位	2 単位	0 単位
			* 6 単位（選択必修）			

* 「選択英語」科目は、2 回生時に 6 単位履修することが望ましいが、3 回生以降でも履修可能。

2 言語英語重視コース【BA パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	プロジェクト英語②	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	選択英語② * 2 単位以上選択必修	
	英語 L1	英語 L2	資格英語演習 B1	資格英語演習 B2		
	英語 S1	英語 S2	Step-up English 1	Step-up English 2		
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
初修	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②	(選択初修外国語②) * 自由科目 (要卒外) として履修可能			
	初修基礎 2	初修展開 2				
日本語 (留学生 のみ)	日本語Ⅶ 文章表現 a	日本語Ⅶ 文章表現 b	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 a)	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 b)		
	日本語Ⅶ 読解 a	日本語Ⅶ 読解 b	(日本語Ⅶ キャリア日本語 a)	(日本語Ⅶ キャリア日本語 b)		
	日本語Ⅶ 聴解口頭 a	日本語Ⅶ 聴解口頭 b				
【英語+初修】 【英語+日本語】 必要単位数	9 単位	9 単位	4 単位	4 単位	2 単位	0 単位
					* 2 単位 (選択必修)	

2 言語英語重視コース【BB パターン】

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	英語実習 1	
	英語 W1	英語 W2	Business English B1	Business English B2	英語実習 2	
	英語 L1	英語 L2	資格英語演習 B1	資格英語演習 B2	資格英語演習 B3	
	英語 S1	英語 S2	Step-up English 1	Step-up English 2	Step-up English 3	
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
初修	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②	(選択初修外国語②) * 自由科目 (要卒外) として履修可能			
	初修基礎 2	初修展開 2				
日本語 (留学生 のみ)	日本語Ⅶ 文章表現 a	日本語Ⅶ 文章表現 b	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 a)	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 b)		
	日本語Ⅶ 読解 a	日本語Ⅶ 読解 b	(日本語Ⅶ キャリア日本語 a)	(日本語Ⅶ キャリア日本語 b)		
	日本語Ⅶ 聴解口頭 a	日本語Ⅶ 聴解口頭 b				
【英語+初修】 【英語+日本語】 必要単位数	9 単位	9 単位	4 単位	4 単位	4 単位	0 単位

※②表記科目は 2 単位科目、それ以外は 1 単位科目

※ () 科目は選択科目のため任意受講です。ただし、選択英語科目は卒業に必要な単位に算入されますが、選択初修外国語科目は卒業に必要な単位に算入されません。

※履修可能な選択英語科目、選択初修外国語科目はカリキュラム表の通りです。なお、選択英語科目を履修するためには受講の前年度までに TOEIC® L&R テスト 550 点以上 / TOEFL® テスト 480 点取得することが必要です。一度この受講条件を満たせば、卒業時まで受講することが可能です。ただし、3 回生時に受講基準を満たしても、4 回生で選択英語科目を受講することはできませんので、2 回生終了時までには必ず基準を満たすようにしてください。

※「〇〇語」の部分に入る語種は、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語 のいずれかです。

ただし外国人留学生は出身国・地域の第 1 言語 (母語) を履修することはみとめられません。

※ 2 言語英語重視コースの外国人留学生は「日本語 + 英語」のみ選択可能です。

2 言語初修重視コース

	1 回生		2 回生		3 回生以降	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
英語	英語 R1	英語 R2	(選択英語②) * 自由科目 (要卒外) として履修可能			
	英語 W1	英語 W2				
	英語 L1	英語 L2				
	英語 S1	英語 S2				
	英語 CALL1	英語 CALL2				
	留学英語演習 1	留学英語演習 2				
初修	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②	選択初修外国語② * 12 単位以上選択必修			
	初修基礎 2	初修展開 2				
必修単位数	9 単位	9 単位	* 12 単位 (選択必修)			

※②表記科目は 2 単位科目、それ以外は 1 単位科目

※ () 科目は選択科目のため任意受講です。選択英語科目を履修するためには受講の前年度までに TOEIC® L&R テスト 550 点以上 / TOEFL® テスト 480 点を取得することが必要です。一度この受講条件を満たせば、卒業時まで受講することが可能です。なお、3 回生時に受講基準を満たしても、4 回生で選択英語科目を受講することはできませんので、2 回生終了時までには必ず基準を満たすようにしてください。ただし、卒業に必要な単位には算入されません。

※履修可能な選択英語科目、選択初修外国語科目はカリキュラム表の通りです。

※「〇〇語」の部分に入る語種は、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語 のいずれかです。

※外国人留学生は「2 言語初修重視コース」は選択できません。

※「2 言語初修重視コース」履修者は 1 回生で TOEIC® L&R IP テスト (オンライン) 団体受験をし、そのスコアが留学英語演習 1 と留学英語演習 2 の成績に反映されます。なお、2 回生は英語のクラスがないためテストスコアは成績には反映されず任意受験となりますが、団体受験の補助は出ます。

2. 英語の履修について

(1) レベル別クラス編成について

英語のクラス編成については、4 月のオリエンテーション期間に実施される英語クラス分けテストの結果により下表のレベル別クラス編成を行います。また第 2・第 4 学期末でも行います。

レ ベ ル 名	略称
Advanced	AD
Upper Intermediate	UI
Intermediate	IM

(2) 単位認定について

- ①出席回数が授業回数の 10 回以上に満たない場合は単位が認定されません。
- ※ 10 回以上出席していても単位が認定されない場合もあります。
- ②レベル間で評価の比率を変えるなど、傾斜評価を行います。

(3) 再履修について

必修の英語科目の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に前年度と同一のクラスを履修すること (原級復帰) を原則とします。卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。詳細は「履修・登録の手引き (別冊)」を参照してください。

(4) 学内英語団体受験「TOEIC®L&R IP テスト (オンライン)」テストスコアによる 1 回生、2 回生の必修英語科目成績への反映について

国際経営学科では、英語到達度検証テストの学内英語団体受験「TOEIC®L&R IP テスト (オンライン)」テストスコアに基づき、下表のとおり 1 回生と 2 回生必修英語科目において成績評価への反映と算入を行います。詳細は「外国語学習のてびき」をご参照ください。

TOEIC®L&R IP テスト (オンライン) スコアが成績評価に算入される科目一覧

科目名	開講学期	対象	受験が必要なテスト
		国際経営学科	
留学英語演習 1・2	1 回生春・秋学期	○	TOEIC®L&R IP テスト
Business English A2	2 回生秋学期	○	TOEIC®L&R IP テスト

国際経営学科 1 回生では、春学期留学英語演習 1、秋学期留学英語演習 2 の科目でそれぞれ 100 点のうち 20 点分が団体受験のテストスコアによる成績への反映です。

国際経営学科 2 回生では、秋学期 Business English A2 の科目で、団体受験テストスコアの基準点達成により 10 点加点または 5 点加点、未達成により 5 点減点という成績への反映があります。不受験は 10 点減点です。

3. 初修外国語・日本語の履修について

(1) クラス編成について

入学手続き時に実施される希望調査に基づき、語種毎にクラス編成を行います。

▶「2 言語英語重視コース」「2 言語初修重視コース」における初修外国語の語種は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語から 1 つの言語を選択し、履修します。留学生は 2 言語英語重視コースにて「英語 + 日本語」のみ履修が可能です。

(2) 単位授与について

初修外国語

出席回数が 10 回以上に満たない場合は単位が授与されません。

日本語科目

日本語科目では、単位修得の最低要件として授業への出席回数が定められています。詳細は、オンラインシラバスを確認してください。

(3) 日本語科目について

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得することができるように、外国語科目として、日本語を履修できるようにしています。

(4) 再履修について（ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語）

ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に前年度と同一のクラスを履修すること（原級復帰）を原則とします。卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

(5) 再履修について（日本語）

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修し、卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2 回生以降、1 回生配当科目を再履修しながら 2 回生配当科目を履修することは認められます。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。他の外国語科目とは受講登録方法が異なりますので、詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

(6) 「2 言語初修重視コース」から「2 言語英語重視コース」への変更について

入学手続き時に「2 言語初修重視コース」を選択した学生について、2 回生進級時に「2 言語英語重視コース」への変更を受け付ける場合があります。手続き方法等については、1 回生秋学期に事務室から案内があります。

1.7 専門教育科目

(1) 総合基礎科目

「企業と経営」「企業と会計」「マネジメント論」「マーケティング論」「経済学入門」の5科目は経営学部における総合基礎科目に位置づけられており、卒業するには少なくとも3科目以上の単位修得が必須です。1回生時に事務室登録されますが、F評価により再履修する場合は、自身で受講登録を行ってください。

(2) 「基礎演習」(2 単位)

基礎演習では、大学での学修・研究を円滑に進めていくためのグループワークや討議などを中心とした演習を通じて、学生自身が主体的に成長する力を身につけること、およびそのための技法を身につけることを目的としています。クラスで共通する関心や問題意識を持つメンバーが集まって構成したグループによって、経営学に関連する理論を理解しつつ、レポートの作成とプレゼンテーションを行います。演習を通じて、課題設定能力や論理的思考力を向上させていきます。1回生は全員指定されたクラスを登録・履修すること(履修指定)を原則としています。

〈基礎演習サブゼミナールアワーについて〉

経営学部では、通常の「基礎演習」授業時間とは別にサブゼミナールアワーを設けています。1回生の専門小集団科目である「基礎演習」において発生した課題や問題点、疑問点などを、各クラスの学生たちが主体となって、議論や意見交換を行い解決していく時間と位置付けています。

また、クラスの仲間同士で議論をすすめていく中で、コミュニケーションを深め、「基礎演習」において活発な議論が展開されることを期待しています。

1回生の皆さんは、このサブゼミナールアワーを十分活用し、内容に応じて担当の教員や先輩たちにも相談しながら、有意義な時間を過ごしてください。

なお、サブゼミナールアワーの時間帯に他の科目を受講登録することはできません。

(3) 「プレゼミ」(2 単位)

プレゼミでは、教員が提示するテーマに基づいて小集団にて学修し、経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、既成概念に拘らず問題発見及び課題解決能力を養うことを目的とします。プレゼミは、専門演習Ⅰに先立って専門領域の基礎的な内容を学びますので、2回生秋学期のみ受講が可能です。

学生は、教員の助言を受けつつ、社会・環境に関する広い関心を持ち、多様な視点から、自ら考え、果敢にチャレンジし、粘り強く実践しようとする意欲と態度を身に付けることが可能となります。実際には、個人やグループで、研究テーマに則した文献の講読やフィールドワークなどの調査を通じた分析・考察を行い、その結果・成果をまとめた報告書やレポートまたは論文を作成し、プレゼンテーションなどを行うプロセスを実践します。

プレゼミの募集および所属クラスの決定は、2回生6月～7月頃に行います。募集に関する案内は、2回生5月～6月頃に案内します(休学した場合、受講できない場合があります)。

(4) 「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」(各2 単位)

経営学部を卒業するためには原則として、3回生春学期から4回生秋学期終了までの2年間に開講される「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を継続して履修し、4回生時に教員の指導のもと「卒業論文」としてまとめ上げ単位を修得することが求められます。「卒業論文」の単位修得は卒業のために必須の要件です。

ただし、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」のかわりに、卒業に必要な単位要件を満たした上で、「ビジネスレポート」の単位修得によって卒業要件を満たすことができます。

専門演習の募集および所属クラスの決定は、2回生秋学期に行います。募集に関する案内は、2回生10月頃に案内します(休学した場合、受講できない場合があります)。

受講資格	各教員の選考により受講が認められた者のみが受講できます。途中辞退はできませんので注意してください。なお、「卒業論文」と「ビジネスレポート」と同時に履修することはできません。
単位認定	「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」「卒業論文」それぞれで卒業に必要な単位として認定。 「専門演習Ⅰ～Ⅲ」では、出席状況、演習への参加態度、および各専門演習での学修成果や終了時点で提出されるタームペーパーなどを対象に評価を行います。 「専門演習Ⅳ」では、出席状況、演習への参加態度、および専門演習Ⅲのタームペーパーである研究計画等にそった研究の実施、および卒業論文の作成過程などにより評価を行います。なお、「専門演習Ⅳ」の評価を行う際は、卒業論文の提出を求めます。 「卒業論文」は、専門演習Ⅳを通じて作成された論文自体を評価します。 卒業論文の形式的要件は以下の通りです。 ・卒業論文（単著）：本文（図表・脚注・参考文献リストを含まない）12,000字以上、英文の場合 5,000words 以上。
備考	「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」の受講登録は事務室で行います（年間受講登録上限単位数に含まれます）。 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」「卒業論文」は、この順で継続的に学ぶことが求められます。そのため、各科目の単位を修得できなかった時点で、後続する科目を履修することはできません。ただし、「専門演習Ⅲ」を履修した場合は、その単位修得の有無にかかわらず「専門演習Ⅳ」「卒業論文」を4回生秋学期に履修することになります。

(5) 「ビジネスレポート」(2単位)

前述の通り、経営学部を卒業するためには原則として、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を履修した上で「卒業論文」の単位修得が必須です。ただし、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」のかわりに、卒業に必要な単位要件を満たした上で、「ビジネスレポート」の単位修得によって卒業要件を満たすことができます。

ビジネスレポートでは、経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、問題発見及び課題解決ができるとともに、総合的かつ論理的に思考し、実践的で適切な判断ができる能力を培います。専門教育で学修した知識を整理・総合し、これまでに修得した能力に基づいてそれぞれの分野における学びをまとめることにより、経営学部における4年間の学修を総括します。卒業するには「卒業論文」または「ビジネスレポート」の単位修得が必須です。

受講可能時期	第8セメスター以降で「卒業見込み」の要件を満たしている場合に受講が可能です。「卒業論文」か「ビジネスレポート」かの履修選択は、専門演習Ⅱ（第6セメスター）終了後になります。
受講資格	「卒業見込み」の要件を満たした者のみが受講できます。途中辞退はできませんので注意してください。なお、「卒業論文」と「ビジネスレポート」を同時に履修することはできません。
単位認定	14回の授業への出席とそれに伴う学修、およびその成果として作成されたレポートを評価します。 レポートは、個人で執筆し、その形式的要件（文字数や体裁など）は、クラス個別ではなく、学部で設定した共通の規定・ルールを適用するものとします。

(6) 「プロジェクト研究」(2単位)

プロジェクト研究では、教員が提示するテーマに基づいて学修し、問題解決能力を養うことを目的とします。学生は、教員の助言を受けつつ、自主性・集団性を発揮して、テーマに取り組むことによって、協調性やリーダーシップを身に付けることが可能となります。実際には、個人やグループで、研究テーマに則した文献の講読やフィールドワークなどの調査を通じた分析・考察を行い、その結果・成果をまとめた報告書やレポートまたは論文を作成し、プレゼンテーションなどを行うプロセスを実践します。

また、経営学部独自の留学プログラム「BSA」と連動した「プロジェクト研究（GBL型）」も開講されます。

①「プロジェクト研究」の概要

○産学共創型

学生と企業等が実際のプロジェクトを進行し、学生が主体となった学修を行うアクティブラーニングをベースにした課題解決型学修（PBL: Project-Based Learning）を行うことで、基礎演習他で身につけた学びの基本能力を社会実践の場で発展させ、自らの問題発見能力と問題解決能力の育成を目指します。インテンシブプログラムの発展科目としても位置づけています。

○GBL 型

「インターナショナル・コラボレーション型」および「海外企業企画型」の2種類から成り、BSA プログラムやテクニカルビジットと連動したものとなっています。

・インターナショナル・コラボレーション型

留学生と共同で研究を進めることで、グローバルな視点での協調性やリーダーシップ、コミュニケーション能力を身に付けることができます。BSA に参加する学生はもちろんのこと、海外留学を考えるすべての学生にとって非常に役立つ学びとなっています（BSA II・IVで英語圏に留学する学生は受講を強く推奨、中国語圏に留学する学生は受講が原則必須となります）。

・海外企業企画型

BSA IIIに参加する場合、プログラムによって「海外企業企画型」の履修が必要な場合があります。詳細は、BSA 募集時に確認をしてください。

②履修上の注意

受講資格	1 回生以上
単位認定	専門科目（自学科・自コース科目以外）として認定
年間受講登録 上限単位数	産学共創型：年間の上限単位数は 1 科目 2 単位まで。 卒業までの上限単位数は 3 科目 6 単位まで。 G B L 型：上限無し。

(7) 履修指定科目

経営学部では、経営学を学ぶにあたり基礎的な科目について履修指定科目として位置づけています。なお、履修指定科目の受講登録については、クラスの指定が必要であるために事務室で行います。指定されたクラスが必修外国語科目と重複、もしくはその他やむを得ない理由で受講できない場合、また何らかの事情で受講辞退を希望する学生は、「履修・登録の手引き（別冊）」で手続き方法を確認し、決められた期間内に必要な手続きを行ってください。

(8) 自学科科目

卒業するために必要な要件に十分注意して、履修するようにしてください。

なお、専門科目は、68 単位（内、自学科科目 12 単位）以上修得しなければなりません。

(9) コース基礎科目

経営学部では、各学科・コースの基礎的な科目について「コース基礎科目」として位置づけています。積極的に履修をしてください。なお、受講登録については自身で行ってください。詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

○国際経営学科「コース基礎科目」：「国際経営論」

(10)「特殊講義」について

「特殊講義」は、内容やサブタイトルが異なる場合には重複して受講することが可能です。ただし、一度合格評価を受けた場合、同一内容の科目については再度受講することはできません。

(11) 英語で開講される専門科目

英語で開講される専門科目があります。このうち、少なくとも 1 科目 2 単位以上修得することを強く推奨します。開講科目については、カリキュラム科目配置表（P. 36～37）を参照してください。

カリキュラム科目配置表

国 際 経 営 学 科

国際経営学科カリキュラム表（2025年度入学生用）

要卒 124 単位以上		1 回 生		2 回 生	
第 1 学期		第 2 学期		第 3 学期	
第 4 学期					
専門科目 (68 単位以上)	総合基礎科目 (6 単位以上)	○企業と経営 ○企業と会計	○マーケティング論 ○経済学入門 ○マネジメント論		
	アカデミック・リテラシー科目	経営のための数学 I ○情報処理演習 ○基礎統計 簿記入門 I	経営のための数学 II 簿記入門 II	情報処理 英文簿記 I 日本経済論 ミクロ経済学 民法 I	英文簿記 II 世界経済論 マクロ経済学 民法 II
	学部共通専門科目			テクニカル・ビジット	
	小集団科目 *注④	○基礎演習	プロジェクト研究 プロジェクト研究 (GBL 型)		プレゼミ
	自学科科目 (12 単位以上)			●国際経営論 アジア経済論 (A)	Integrated Marketing International Business 異文化マネジメント論 Corporate Accounting 近代アジア経済史 (A)
	国際経営学科	BSA I (外国留学特修科目)		BSA III (海外実習 I、II) ○英語経営学入門 I	BSA II・IV (※各科目で単位認定) ○英語経営学入門 II
	組織				組織行動論 経営史
	戦略			企業論 経営戦略論 技術経営論 アントレプレナーシップ論 (E)	経営統計論 産業技術論 情報システム論 ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	マーケティング			マーケティング・リサーチ 流通論 交通システム論 会計学 金融論	デザイン経営論 企業分析論 会計制度論 資金調達論
	会計	プログラム特殊講義 (会計キャリア) I プログラム特殊講義 (会計キャリア) II プログラム特殊講義 (会計キャリア) III 経営学特殊講義 α	プログラム特殊講義 (会計キャリア) IV	プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論) 経営学特殊講義 β 経営学特殊講義 β (遠隔授業)	
外国語科目 注⑤	インフレーションプログラム (参考)	BSA I		アジア経済論 (A) プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プロジェクト研究 (GBL 型)	BSA II・IV 近代アジア経済史 (A)
	アジアビジネスプログラム			アントレプレナーシップ論 (E)	ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	産学協同アントレプレナーシップ 教育プログラム	プログラム特殊講義 (会計キャリア) I プログラム特殊講義 (会計キャリア) II プログラム特殊講義 (会計キャリア) III	プログラム特殊講義 (会計キャリア) IV	英文簿記 I	英文簿記 II
	会計キャリアプログラム			プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論)	プロジェクト研究
30 単位以上	英語科目	英語 R1 英語 W1 英語 L1 英語 S1 英語 CALL1 留学英語演習 1	① 英語 R2 ① 英語 W2 ① 英語 L2 ① 英語 S2 ① 英語 CALL2 ① 留学英語演習 2	Business English A1 Business English B1 資格英語演習 B1 Step-up English 1	① Business English A2 ① Business English B2 ① 資格英語演習 B2 ① Step-up English 2
	初修外国語	○○語・基礎 1 ○○語・基礎 2	② ○○語・展開 1 ① ○○語・展開 2	選 択 英 語 ② (※選択必修)	
		※ 2 回生以上の英語科目は、TOEIC® L & R テスト / TOEFL® テスト			
		【初修外国語は、フランス語・スペイン語・ドイツ語・朝鮮語・中国語から一つの言語を選択します。】			
教養科目 (20 単位以上)	立命館科目	教養基盤科目 (A 群)		国際教養科目 (B 群)	
	日本の近現代と立命館 ピア・サポート論 ジェンダーとダイバーシティ メディアと現代文化 市民と政治 日本国憲法 災害と安全 歴史観の形成 科学・技術と社会 実践データ科学 現代平和論 戦争の歴史と思想 平和人権フィールドスタディ	〈第 1 分野 思想と人間〉 哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 論理と思考 社会思想史 科学技術と倫理 宗教と社会 メンタルヘルス (留) 日本の文化・地理・歴史		〈異文化交流科目区分〉 Cross-cultural Encounters 1 Cross-cultural Encounters 2 Cross-cultural Studies Cross-cultural Seminar Non-verbal Communication	
		〈第 2 分野 現代と文化〉 メディアと図書館 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代的教育 世界の言語と文化 世界と日本の食文化 観光学 京都学 (留) 日本語学		〈海外留学科目区分〉 Academic Skills 1 Academic Skills 2 Global Engineer Program University of Hawaii Program	
		〈第 3 分野 芸術と創造〉 美と芸術の論理 音楽原論 映像と表現 映像メディア実践入門 文芸創作論		〈国際教養科目区分〉 Liberal Arts Seminar Introduction to Law Modern World History Japan and the West Introduction to Economics Kyoto and the Japanese Arts Special Lecture Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology Introduction to Natural Science Introduction to Humanities Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Gender Studies Introduction to Computational Linguistics History of Computing Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities Understanding Language Computers in Education Language in Politics Introduction to Climate Change and Global Warming Introductory Course to International Project Development Understanding Visual Culture Introduction to Food Culture Cross Border Policy Issues Playing with Playfulness Introduction to Global Justice Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	
		〈第 4 分野 社会・経済と統治〉 国の行政組織 現代社会と法 経済と社会 現代日本の政治 現代の国際関係と日本 日本経済概説		〈第 5 分野 世界の史的構成〉 エリアスタディ入門 新しい日本史像 中国の国家と社会 東アジアと朝鮮半島 ヨーロッパの歴史 アメリカの社会と文化 イスラーム世界の多様性	
		〈第 6 分野 自然・科学と人類〉 科学的な見方・考え方 宇宙科学 地球科学 生命科学 (分子と生命) 生命科学 (生物と生態系) 生命と化学 現代環境論 科学と技術の歴史 生命科学と倫理 近現代の科学技術 (留) 日本の自然・科学技術		〈第 7 分野 数理と情報〉 数理の世界 情報の数理 情報科学 情報技術と社会 統計学 データサイエンス・AI 基礎 データエンジニアリング基礎	

注①科目名の後ろにある○内数字は科目の単位数を示しています。記載されていない科目については全て 2 単位です。

注②科目名の前にある○印は履修指定科目を表しています。履修指定科目については P. 33 を確認してください。

注③科目名の前にある●印はコース基礎科目を表しています。コース基礎科目については P. 33 を確認してください。

注④卒業論文およびビジネスレポートの履修については P. 31～32 を確認してください。

3 回 生		4 回 生	
第 5 学期	第 6 学期	第 7 学期	第 8 学期
組織の経済学			
会社法 商法	金融法 労働法	税法 国際取引法	
ビジネス・インターンシップ			
専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ 卒業論文 ビジネスレポート
国際マーケティング論 国際経営戦略論	International Strategic Management 国際人的資源管理論	Strategic Marketing Managing Multinational Enterprise Cross-Cultural Management Research	
企業文化論	International Corporate Culture International Accounting 日中ビジネス論 (A)	アジア経営論 (A) 国際金融論	
オペレーションズ・リサーチ			
経営組織論	非営利組織論	人的資源管理論 企業倫理論	環境経営論
比較経営史	比較企業論 イノベーション戦略論 企業ネットワーク論 技術革新論	中小企業論 戦略経営論	
生産システム論 経営情報論 ベンチャーファイナンス (E)			
マーケティング・マネジメント	製品開発論 広告論	消費者行動論	
メディア・デザイン論 観光システム論	サービス・マーケティング論		
管理会計論 財務会計論 証券投資論	原価計算論 連結会計論 コーポレートファイナンス	監査論	
経営学特殊講義 y			
アジア経営論 (A)	日中ビジネス論 (A)		
ベンチャーファイナンス (E)			
人的資源管理論 生産システム論 中小企業論			
プロジェクト英語 英語実習 1 英語実習 2 資格英語演習 B3 Step-up English 3	② ① ① ① ① 資格英語演習 B4 Step-up English 4	選択英語科目 Presentation 1 Discussion & Debate 1 Media English 1 News English 1 Academic Writing 1 Academic Reading Intercultural Communication English Workshop 1 Presentation 2 Discussion & Debate 2 Media English 2 News English 2 Academic Writing 2 Business Correspondence Comparative Culture English Workshop 2	
のスコアによって履修パターンが変わります。詳細は P. 25～29 を確認してください。			
選 択 初 修 外 国 語 ② (※ 2 言語初修重視コース生は選択必修)			
時事〇〇語 1 〇〇語・比較文化論 1 〇〇語プレゼンテーション 1	時事〇〇語 2 〇〇語・比較文化論 2 〇〇語プレゼンテーション 2		
社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)	海外留学プログラム (単位授与科目 / 科目分野)	グローバル社会の体験と理解②／教養科目 Intensive Language Workshop ②／外国語 (選択英語科目) ※ Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー) ②／教養科目 Language for Academic Communication ②／外国語 (選択英語科目) ※ Global Project-Based Learning ②／教養科目 Area StudyⅠ ②／教養科目 Area StudyⅡ ④／教養科目 Global Study ④／教養科目 Academic Communication (Online Learning) ②／教養科目 Area Study (Online Learning) ②／教養科目	
(キャリア教育科目) 社会と学ぶ課題解決 学びとキャリア 仕事とキャリア コーポ演習 (理論) コーポ演習 (実践)			
(サービスマーケティング科目) 地域参加学習入門 現代社会とボランティア 現代社会のフィールドワーク シナジーシップ・スタディーズ			
スポーツ・健康科目 (D 群)			
スポーツの歴史と発展 スポーツと現代社会 スポーツのサイエンス 現代人とヘルスケア スポーツ方法実習Ⅰ ① スポーツ方法実習Ⅱ ①			
学際総合科目 (E 群)			
教養ゼミナール 異文化間テーマ演習 超領域リベラルアーツ 単位互換科目 ①②④ 単位互換科目 (遠隔授業) ①②④ 特殊講義 (総合) ①②③④ APU 交流科目			
※→国際経営学科 2 言語初修重視コースの履修生は自由科目 (要卒外) として単位授与する。			

注⑤履修方法については P. 25～30 を確認してください。

注⑥春学期または秋学期の科目配置は、担当者の条件等により臨時に変更されることがあります。「シラバス」および「時間割表」で確認してください。

注⑦教養科目については、分野を問わず履修することができます。ただし、(留)がつく科目は留学生しか履修できません。

Ⅱ－4

経営学科

1. 経営学科の学修のすすめ方

1.1 卒業に必要な科目・単位の履修①

卒業するためには、下記の通り履修し、124 単位以上修得しなければなりません。
経営学科 卒業に必要な科目・単位の履修

科目分野		必要単位	備 考
教養科目	立命館科目・A 群～E 群	24 以上	大学間単位互換科目を含む
外国語科目	英語コース	12 以上	TOEIC®L&R テスト／TOEFL® テストのスコアにより国際経営学科の「選択英語」科目が受講可能です。
	2 言語コース		
専門科目		74 以上	専門科目 74 単位のうち、自コース科目 6 科目 12 単位以上の修得が必要です。
自コース科目		12 以上	総合基礎科目のうち、3 科目 6 単位以上の修得が必要です。
合 計		124 以上	

※「4 回生時以上において 4 単位以上修得」しなければ卒業することはできない。

※卒業論文およびビジネスレポートの履修については、P. 45～46 を参照してください。

(1) 大学間単位互換科目は教養科目として認定します（詳細は「V. 学部横断プログラム」参照のこと）。

(2) 「基礎演習」、外国語科目、総合基礎科目についてはクラスが指定されています。受講登録は事務室で行いますので自身で登録する必要はありません（詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」参照）。

※「基礎演習」については 1 回生のみ履修可能

(3) 他学部の専門科目を修得した場合、10 単位を上限に他コース分野の専門科目として認めます。

1.2 卒業に必要な科目・単位の履修②

卒業に必要な単位（124 単位）の内、「4 回生時以上において 4 単位以上修得すること」が卒業に必要な条件として設けられています。3 回生終了時点で、卒業に必要な単位数を修得しても、「4 回生時以上において 4 単位以上修得」しなければ、卒業することはできません。

1.3 卒業見込証明書発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、学内の証明書自動発行機およびコンビニエンスストアのマルチプリント機で発行できます。詳細については、大学ホームページ（大学ホームページトップ＞在学生の方＞証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について）で確認してください。

【発行基準】

①第 7 学期以降であること

※「履修状況確認」画面に表示されている「現セメスター」が、7 セメスター以降であること。

（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること。（休学中は発行できません）

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日 (下記参照)
第 7 学期 (7 セメスター) 学期開始日(*)～学期終了日	75 単位以下	(証明書発行不可)
	76 単位以上	翌学期卒業日
第 8 学期以降 (8 セメスター以降) 各学期開始日(*)～学期終了日	75 単位以下	(証明書発行不可)
	76 単位以上	当学期卒業日

※システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3 月 20 日

1.4 年間受講登録上限
単位数

年間受講登録上限単位数	
回 生	登録単位数
1 回 生	44
2 回 生	44
3 回 生	48
4 回生以上	48

年間受講登録上限単位数	
含まれるもの	含まれないもの
・ 通常科目 ・ 専門演習Ⅰ～Ⅳ、卒業論文 ・ ビジネスレポート ・ 他学部受講科目 ・ 簿記入門Ⅰ・Ⅱ	・ プロジェクト研究（G B L 型・産学共創型） ・ テクニカル・ビジット ・ インターンシップ・コーオブ教育科目 ・ 大学コンソーシアム京都単位互換科目（年間2科目上限） ・ 留学帰国時に単位認定される科目（プログラムによって年間受講登録上限単位数に含まれる場合もありますので参加するプログラムの募集要項等で必ず確認してください） ・ 自由科目

※各年度により、年間受講登録上限単位数に含まれない科目が変更されることがあるので、詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

1.5 教養科目

教養科目は、立命館科目・A群～E群の各分野からなり、最低24単位以上修得しなければなりません。それぞれの科目群・分野からバランスよく履修してください。

- (1) 「スポーツ方法実習」の受講登録については、「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。
- (2) 各科目の配当回生は、カリキュラム科目配置表（P. 50～57）で確認してください。
- (3) 「単位互換科目」は6単位を上限として卒業に必要な単位に含めることができます。

1.6 外国語科目

★「外国語学習のてびき」も必ず参照してください。

1. 外国語履修コースについて

経営学科では、入学手続き時に英語コースまたは2言語コースのいずれかを選択し、それぞれ定められた履修方法に従い、卒業に必要な単位を修得します。なお、一度選択したコース・語種は変更することができません。

英語コース

	1 回生		2 回生		3 回生以降
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	
	英語 SW1	英語 SW2	Business English B1	Business English B2	
	英語 CALL1	英語 CALL2	(選択英語②)		
	資格英語演習 A1	資格英語演習 A2			
必修単位数	4 単位	4 単位	2 単位	2 単位	0 単位

※②表記科目は2単位科目、それ以外は1単位科目

※（ ）科目は選択科目のため任意受講（ただし、卒業に必要な単位には算入されます）

※履修可能な選択英語科目はカリキュラム表の通りです。なお、選択英語科目を履修するためには、受講の前年度の1月中旬（具体的な期日はmanaba+R「お知らせ」を確認してください）までにTOEIC® L&R テスト550点以上/TOEFL® テスト480点以上を取得する必要があります。一度この受講条件を満たせば、卒業時まで履修することができます。ただし、3回生時に受講基準を満たしても、4回生で選択英語科目を受講することはできませんので、2回生終了時まで必ず基準を満たすようにしてください。

2 言語コース

	1 回生		2 回生		3 回生以降
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
英語	英語 R1	英語 R2	Business English A1	Business English A2	
	英語 SW1	英語 SW2	(選択英語②)		
初修 (必須)	初修基礎 1 ②	初修展開 1 ②			
	初修基礎 2	初修展開 2			
初修 (希望者のみ)			(副専攻科目②) * 12 単位以上を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定する		
日本語 (留学生のみ)	日本語Ⅶ 文章表現 a	日本語Ⅶ 文章表現 b	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 a)	(日本語Ⅶ アカデミック日本語 b)	
	日本語Ⅶ 読解 a	日本語Ⅶ 読解 b	(日本語Ⅶ キャリア日本語 a)	(日本語Ⅶ キャリア日本語 b)	
	日本語Ⅶ 聴解口頭 a	日本語Ⅶ 聴解口頭 b			
【英語 + 初修】 【英語 + 日本語】 必修単位数	5 単位	5 単位	1 単位	1 単位	0 単位
【初修 + 日本語】 必修単位数	6 単位	6 単位	0 単位	0 単位	0 単位

※②表記科目は 2 単位科目、それ以外は 1 単位科目

※ () 科目は選択科目のため任意受講（ただし、卒業に必要な単位には算入されます）

※「〇〇語」の部分に入る語種は、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語 のいずれかです。

ただし外国人留学生は出身国・地域の第 1 言語（母語）を履修することは認められません。

※履修可能な選択英語科目、選択初修外国語科目はカリキュラム表の通りです。なお、選択英語科目を履修するためには、受講の前年度までに TOEIC®L&R テスト 550 点以上 / TOEFL® テスト 480 点以上を取得する必要があります。一度この受講条件を満たせば、卒業時まで履修することができます。ただし、3 回生時に受講基準を満たしても、4 回生で選択英語科目を受講することはできませんので、2 回生終了時までに必ず基準を満たすようにしてください。選択初修外国語は副専攻を選択した場合のみ履修することが可能です。副専攻科目については P. 90～91 を参照してください。

※留学生は「英語 + 日本語」または「初修外国語 + 日本語」のみ履修が可能です。

2. 英語の履修について

(1) レベル別クラス編成について

英語のクラス編成については、4 月のオリエンテーション期間に実施される英語クラス分けテストの結果により下表のレベル別クラス編成を行います。また、第 2・第 4 学期末でも行います。

レ ベ ル 名	略称
Upper Intermediate	UI
Intermediate	IM
Pre-Intermediate	PI

(2) 単位認定について

①出席回数が授業回数の 10 回以上に満たない場合は単位が認定されません。

※ 10 回以上出席していても単位が認定されない場合もあります。

②レベル間で評価の比率を変えるなど、傾斜評価を行います。

(3) 再履修について

必修の英語科目の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に前年度と同一のクラスを履修すること（原級復帰）を原則とします。卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

(4) 学内英語団体受験「TOEIC®L&R IP テスト（オンライン）」テストスコアによる 1 回生、2 回生の必修英語科目成績への反映について

経営学科では、英語到達度検証テストの学内英語団体受験「TOEIC®L&R IP テスト（オンライン）」テストスコアに基づき、下表のとおり 1 回生と 2 回生必修英語科目において成績評価への反映と算入を行います。詳細は「外国語学習のてびき」をご参照ください。

TOEIC®L&R IP テスト（オンライン）スコアが成績評価に算入される科目一覧

科目名	開講学期	対象		受験が必要なテスト
		経営学科		
		英語コース	2 言語コース	
資格英語演習 A1・A2	1 回生春・秋学期	○	—	TOEIC®L&R IP テスト
英語 R2	1 回生秋学期	—	○	TOEIC®L&R IP テスト
Business English A2	2 回生秋学期	○	○	TOEIC®L&R IP テスト

経営学科 1 回生の英語コースでは、春学期資格英語演習 A1、秋学期資格英語演習 A2 の科目でそれぞれ 100 点のうち 20 点分が団体受験のテストスコアによる成績への反映です。1 回生 2 言語コースでは、秋学期英語 R2 の科目で、団体受験テストスコアの基準点達成により 5 点加点、未達成により 5 点減点という成績への反映があります。不受験は 10 点減点です。

経営学科 2 回生の英語コース、2 言語コースでは、秋学期 Business English A2 の科目で、団体受験テストスコアの基準点達成により 5 点加点、未達成により 5 点減点という成績への反映があります。不受験は 10 点減点です。

3. 初修外国語・日本語の履修について**(1) クラス編成について**

入学手続き時に実施される希望調査に基づき、語種毎にクラス編成を行います。

▶「2 言語コース」における初修外国語の語種は、フランス語、スペイン語、ドイツ語、朝鮮語、中国語から 1 つの言語を選択し、履修します。

留学生は「英語＋日本語」または「初修外国語＋日本語」のみ履修が可能です。

(2) 単位授与について**初修外国語**

出席回数が 10 回以上に満たない場合は単位が授与されません。

日本語科目

全授業回数のうち 9 回の出席を単位修得の最低要件とする。

(3) 日本語科目について

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得することができるように、外国語科目として、日本語を履修できるようにしています。

(4) 再履修について（ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語）

ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に前年度と同一のクラスを履修すること（原級復帰）を原則とします。卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

(5) 再履修について（日本語）

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修し、卒業までに必要な単位を修得してください。

各科目の開講学期に注意し、計画的に履修をしてください。

「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2 回生以降、1 回生配当科目を再履修しながら 2 回生配当科目を履修することは認められます。

また、再履修科目は自身で受講登録する必要があります。他の外国語科目とは受講登録方法が異なりますので、詳細は「履修・登録の手引き（別冊）」を参照してください。

1.7 専門教育科目

(1) 総合基礎科目

「企業と経営」「企業と会計」「マネジメント論」「マーケティング論」「経済学入門」の5科目は経営学部における総合基礎科目に位置づけられており、卒業するには少なくとも3科目以上の単位修得が必須です。1回生時に事務室登録されますが、F評価により再履修する場合は、自身で受講登録を行ってください。

(2) 「基礎演習」(2単位)

基礎演習では、大学での学修・研究を円滑に進めていくためのグループワークや討議などを中心とした演習を通じて、学生自身が主体的に成長する力を身につけること、およびそのための技法を身につけることを目的としています。クラスで共通する関心や問題意識を持つメンバーが集まって構成したグループによって、経営学に関連する理論を理解しつつ、レポートの作成とプレゼンテーションを行います。演習を通じて、課題設定能力や論理的思考力を向上させていきます。1回生は全員指定されたクラスを登録・履修すること(履修指定)を原則としています。

〈基礎演習サブゼミナールアワーについて〉

経営学部では、通常の「基礎演習」授業時間とは別にサブゼミナールアワーを設けています。1回生の専門小集団科目である「基礎演習」において発生した課題や問題点、疑問点などを、各クラスの学生たちが主体となって、議論や意見交換を行い解決していく時間と位置付けています。

また、クラスの仲間同士で議論をすすめていく中で、コミュニケーションを深め、「基礎演習」において活発な議論が展開されることを期待しています。

1回生の皆さんは、このサブゼミナールアワーを十分活用し、内容に応じて担当の教員や先輩たちにも相談しながら、有意義な時間を過ごしてください。

なお、サブゼミナールアワーの時間帯に他の科目を受講登録することはできません。

(3) コース基礎科目

実践型の学びとともに、ビジネスを取り巻く環境の変化に対応して行動できる基礎力を養います。特に2回生からは、4つの専門領域をカバーするコースに分かれ、それぞれの専門を高めます。

各学科・コースごとに「コース基礎科目」を設けています。各分野において基礎的な科目となりますので、積極的に履修をしてください。なお、受講登録については自身で行ってください。詳細は「履修・登録の手引き(別冊)」を参照してください。

▼組織コース

企業や非営利組織の形態や歴史、組織の経営管理や仕組みを理解します。リーダーシップや人材育成、中小企業や事業継承、企業倫理や環境経営など多様な学びもこのコースの特徴です。

○コース基礎科目:「企業論」

▼戦略コース

企業が目標を達成するための経営戦略と、そのための手段や方法を理解します。製品の開発・生産にかかわる技術経営や、事業創造にかかわるアントレプレナーシップ、情報システムや経営統計についての学びもこのコースの特徴です。

○コース基礎科目:「経営戦略論」、「アントレプレナーシップ論」

▼マーケティングコース

企業経営において顧客ニーズを正しくつかみ、価値ある商品を創造するための「マーケティング」を体系的に学びます。また、最近注目される「観光・サービス」「デザイン・マネジメント」を学ぶことができるのも、このコースの大きな特徴です。

○コース基礎科目:「マーケティング・リサーチ」、「流通論」

▼会計・ファイナンスコース

企業を取り巻く資金の流れとその仕組みを理解します。利害関係をもつ企業外部との取引や企業内部の管理運営、さらには金融市場と金融制度についての理解を深めます。企業に関するビッグデータの分析や経済学に基づいたモデル分析を用いた学びもこのコースの特徴です。

○コース基礎科目:「会計学」、「金融論」

(4)「プレゼミ」(2単位)

プレゼミでは、教員が提示するテーマに基づいて小集団にて学修し、経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、既成概念に拘らず問題発見及び課題解決能力を養うことを目的とします。プレゼミは、専門演習Ⅰに先立って専門領域の基礎的な内容を学びますので、2回生秋学期のみ受講が可能です。

学生は、教員の助言を受けつつ、社会・環境に関する広い関心をもち、多様な視点から、自ら考え、果敢にチャレンジし、粘り強く実践しようとする意欲と態度を身に付けることが可能となります。実際には、個人やグループで、研究テーマに則した文献の講読やフィールドワークなどの調査を通じた分析・考察を行い、その結果・成果をまとめた報告書やレポートまたは論文を作成し、プレゼンテーションなどを行うプロセスを実践します。

プレゼミの募集および所属クラスの決定は、2回生6月～7月頃に行います。募集に関する案内は、2回生5月～6月頃に案内します(休学した場合、受講できない場合があります)。

(5)「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」(各2単位)

経営学部を卒業するためには原則として、3回生春学期から4回生秋学期終了までの2年間に開講される「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を継続して履修し、4回生時に教員の指導のもと「卒業論文」としてまとめ上げ単位を修得することが求められます。「卒業論文」の単位修得は卒業のために必須の要件です。

ただし、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」のかわりに、卒業に必要な単位要件を満たした上で、「ビジネスレポート」の単位修得によって卒業要件を満たすことができます。

専門演習の募集および所属クラスの決定は、2回生秋学期に行います。募集に関する案内は、2回生10月頃に案内します(休学した場合、受講できない場合があります)。

受講資格	各教員の選考により受講が認められた者のみが受講できます。途中辞退はできませんので注意してください。なお、「卒業論文」と「ビジネスレポート」と同時に履修することはできません。
単位認定	「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」「卒業論文」それぞれで卒業に必要な単位として認定。 「専門演習Ⅰ～Ⅲ」では、出席状況、演習への参加態度、および各専門演習での学修成果や終了時点で提出されるタームペーパーなどを対象に評価を行います。 「専門演習Ⅳ」では、出席状況、演習への参加態度、および専門演習Ⅲのタームペーパーである研究計画等にそった研究の実施、および卒業論文の作成過程などにより評価を行います。なお、「専門演習Ⅳ」の評価を行う際は、卒業論文の提出を求めます。 「卒業論文」は、専門演習Ⅳを通じて作成された論文自体を評価します。 卒業論文の形式的要件は以下の通りです。 ・卒業論文(単著): 本文(図表・脚注・参考文献リストを含まない) 12,000字以上、英文の場合 5,000words 以上。
備考	「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」の受講登録は事務室で行います(年間受講登録上限単位数に含まれます)。 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」「卒業論文」は、この順で継続的に学ぶことが求められます。そのため、各科目の単位を修得できなかった時点で、後続する科目を履修することはできません。ただし、「専門演習Ⅲ」を履修した場合は、その単位修得の有無にかかわらず「専門演習Ⅳ」「卒業論文」を4回生秋学期に履修することになります。

(6)「ビジネスレポート」(2単位)

前述の通り、経営学部を卒業するためには原則として、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を履修した上で「卒業論文」の単位修得が必須です。ただし、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」のかわりに、卒業に必要な単位要件を満たした上で、「ビジネスレポート」の単位修得によって卒業要件を満たすことができます。

ビジネスレポートでは、経営に関する諸事象について、経営学の観点から明らかにし、問題発見及び課題解決ができるとともに、総合的かつ論理的に思考し、実践的で適切な判断ができる能力を培います。専門教育で学修した知識を整理・総合し、これまでに修得した能力に基づいてそれぞれの分野における学びをまとめることにより、経営学部における4年間の学修を総括します。卒業するには「卒業論文」または「ビジネスレポート」の単位修得が必須です。

受講可能時期	第8セメスター以降で「卒業見込み」の要件を満たしている場合に受講が可能です。「卒業論文」か「ビジネスレポート」かの履修選択は、専門演習Ⅱ（第6セメスター）終了後になります。
受講資格	「卒業見込み」の要件を満たした者のみが受講できます。途中辞退はできませんので注意してください。なお、「卒業論文」と「ビジネスレポート」を同時に履修することはできません。
単位認定	14回の授業への出席とそれに伴う学修、およびその成果として作成されたレポートを評価します。 レポートは、個人で執筆し、その形式的要件（文字数や体裁など）は、クラス個別ではなく、学部で設定した共通の規定・ルールを適用するものとします。

(7)「プロジェクト研究」(2単位)

プロジェクト研究では、教員が提示するテーマに基づいて学修し、問題解決能力を養うことを目的とします。学生は、教員の助言を受けつつ、自主性・集団性を発揮して、テーマに取り組むことによって、協調性やリーダーシップを身に付けることが可能となります。実際には、個人やグループで、研究テーマに則した文献の講読やフィールドワークなどの調査を通じた分析・考察を行い、その結果・成果をまとめた報告書やレポートまたは論文を作成し、プレゼンテーションなどを行うプロセスを実践します。

また、経営学部独自の留学プログラム「BSA」と連動した「プロジェクト研究（GBL型）」も開講されます。

①「プロジェクト研究」の概要

○産学共創型

学生と企業等が実際のプロジェクトを進行し、学生が主体となった学修を行うアクティブラーニングをベースにした課題解決型学修（PBL: Project-Based Learning）を行うことで、基礎演習他で身につけた学びの基本能力を社会実践の場で発展させ、自らの問題発見能力と問題解決能力の育成を目指します。インテンシブプログラムの発展科目としても位置づけています。

○GBL型

「インターナショナル・コラボレーション型」および「海外企業企画型」の2種類から成り、BSAプログラムやテクニカルビジットと連動したものとなっています。

・インターナショナル・コラボレーション型

留学生と共同で研究を進めることで、グローバルな視点での協調性やリーダーシップ、コミュニケーション能力を身に付けることができます。BSAに参加する学生はもちろんのこと、海外留学を考えるすべての学生にとって非常に役立つ学びとなっています（BSAⅡ・Ⅳで英語圏に留学する学生は受講を強く推奨、中国語圏に留学する学生は受講が原則必須となります）。

・海外企業企画型

BSAⅢに参加する場合、プログラムによって「海外企業企画型」の履修が必要な場合があります。詳細は、BSA募集時に確認をしてください。

②履修上の注意

受講資格	1回生以上
単位認定	専門科目（自学科・自コース科目以外）として認定
年間受講登録 上限単位数	産学共創型：年間の上限単位数は1科目2単位まで。 卒業までの上限単位数は3科目6単位まで。 GBL型：上限無し。

(8)履修指定科目

経営学部では、経営学を学ぶにあたり基礎的な科目について履修指定科目として位置づけています。なお、履修指定科目の受講登録については、クラスの指定が必要であるために事務室で行います。指定されたクラスが必修外国語科目と重複、もしくはその他やむを得ない理由で受講できない場合、また何らかの事情で受講辞退を希望する学生は、「履修・登録の手引き（別冊）」で手続き方法を確認し、決められた期間内に必要な手続きを行ってください。

(9) 自コース科目

卒業するために必要な要件に十分注意して、履修するようにしてください。

なお、専門科目は、74 単位（内、自コース科目 12 単位）以上修得しなければなりません。

(10) 「特殊講義」について

「特殊講義」は、内容やサブタイトルが異なる場合には重複して受講することが可能です。

ただし、一度合格評価を受けた場合、同一内容の科目については再度受講することはできません。

(11) 英語で開講される科目

英語で開講される専門科目があります。開講科目については、カリキュラム科目配置表（P. 50～57）を参照してください。

カリキュラム科目配置表

経	営	学	科	
組	織	コ	ー	ス
戦	略	コ	ー	ス
マーケティングコース				
会計・ファイナンスコース				

経営学科 組織コースカリキュラム表 (2025年度入学生用)

要 卒 124 単位以上		1 回 生		2 回 生	
		第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期
専 門 科 目 (74 単位以上)	総 合 基 礎 科 目 (6 単 位 以 上)	○企業と経営 ○企業と会計	○マーケティング論 ○経済学入門 ○マネジメント論		
	アカデミック・リテラシー科目	経営のための数学Ⅰ ○情報処理演習 ○基礎統計 簿記入門Ⅰ	経営のための数学Ⅱ 簿記入門Ⅱ	情報処理 英文簿記Ⅰ	英文簿記Ⅱ
	学 部 共 通 専 門 科 目			日本経済論 ミクロ経済学 民法Ⅰ	世界経済論 マクロ経済学 民法Ⅱ
	小集団科目 ※注④	○基礎演習	プロジェクト研究 プロジェクト研究 (GBL 型)	デクニカル・ビジット	プレゼミ
	自 コ ー ス 科 目 (1 2 単 位 以 上)			●企業論 アジア経済論 (A)	組織行動論 経営史 異文化マネジメント論 近代アジア経済史 (A) International Business
	国際経営学科	BSAⅠ (外国留学特修科目)		BSAⅢ (海外実習Ⅰ、Ⅱ) 国際経営論	BSAⅡ・Ⅳ (※各科目で単位認定) Integrated Marketing Corporate Accounting
	戦 略			経営戦略論	
	展 開 科 目			技術経営論 アントレプレナーシップ論 (E)	経営統計論 産業技術論 情報システム論 ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	マ ー ケ テ ィ ン グ			マーケティング・リサーチ 流通論	デザイン経営論
	会 計			交通システム論 会計学 金融論	企業分析論 会計制度論 資金調達論
イ ン テ ン シ ン グ プ ロ グ ラ ム (参考)	アジアビジネスプログラム	BSAⅠ	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	アジア経済論 (A) プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プロジェクト研究 (GBL 型)	BSAⅡ・Ⅳ 近代アジア経済史 (A) デクニカル・ビジット
	産学協同アントレプレナーシップ 教 育 プ ロ グ ラ ム			アントレプレナーシップ論 (E)	ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	会 計 カ リ ア プ ロ グ ラ ム	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅰ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅱ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅲ	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	英文簿記Ⅰ	英文簿記Ⅱ
	事業継承教育プログラム	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅰ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅱ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅲ 経営学特殊講義 a	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論) 経営学特殊講義 β 経営学特殊講義 β (遠隔授業)	プロジェクト研究
外 国 語 科 目	英 語 コ ー ス	英語 R1 英語 SW1 英語 CALL1 資格英語演習 A1	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ① 英語 CALL2 ① 資格英語演習 A2	① Business English A1 ① Business English B1	① Business English A2 ① Business English B2 (選 択 英 語 ②)
	2 言 語 コ ー ス ※注⑤	英語 R1 英語 SW1 ○○語・基礎 1 ○○語・基礎 2	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ② ○○語・展開 1 ① ○○語・展開 2	Business English A1 ① Business English A2	① (選 択 英 語 ②)
	副 専 攻 科 目 (2 言語コース生希望者のみ)			(副) ○○語で学ぶ文化・社会 1 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 2	(副) ○○語で学ぶ文化・社会 1 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 2
教 養 科 目 (24 単位以上)	立命館科目	教養基盤科目 (A 群)		国際教養科目 (B 群)	
	日本の近現代と立命館 ピア・サポート論 ジェンダーとダイバーシティ メディアと現代文化 市民と政治 日本国憲法 災害と安全 歴史観の形成 科学・技術と社会 実践データ科学 現代平和論 戦争の歴史と思想 平和人権フィールドスタディ	《第 1 分野 思想と人間》 哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 論理と思考 社会思想史 科学技術と倫理 宗教と社会 メンタルヘルス (留) 日本の文化・地理・歴史 《第 2 分野 現代と文化》 メディアと図書館 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代的教育 世界の言語と文化 世界と日本の食文化 観光学 京都学 (留) 日本語学 《第 3 分野 芸術と創造》 美と芸術の論理 音楽原論 映像と表現 映像メディア実践入門 文芸創作論 《第 4 分野 社会・経済と統治》 国の行政組織 現代社会と法 経済と社会 現代日本の政治 現代の国際関係と日本 日本経済概説	現代の世界経済 社会と福祉 ソーシャルデザイン論 (留) 日本の社会・政治 (留) 日本の経済・経営 《第 5 分野 世界の史的構成》 エリアスタディ入門 新しい日本史像 中国の国家と社会 東アジアと朝鮮半島 ヨーロッパの歴史 アメリカの社会と文化 イスラーム世界の多様性 《第 6 分野 自然・科学と人類》 科学的な見方・考え方 宇宙科学 地球科学 生命科学 (分子と生命) 生命科学 (生物と生態系) 材料と化学 現代環境論 科学と技術の歴史 生命科学と倫理 近現代の科学技術 (留) 日本の自然・科学技術 《第 7 分野 数理と情報》 数理の世界 情報の数理 情報科学 情報技術と社会 統計学 データサイエンス・AI 基礎 データエンジニアリング基礎	《国際教養科目区分》 Liberal Arts Seminar Introduction to Law Modern World History Japan and the West Introduction to Economics Kyoto and the Japanese Arts Special Lecture Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology Introduction to Natural Science Introduction to Humanities Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Gender Studies Introduction to Computational Linguistics History of Computing Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities Understanding Language Computers in Education Language in Politics Introductory Course to Climate Change and Global Warming Introductory Course to International Project Development Understanding Visual Culture Introduction to Food Culture Cross Border Policy Issues Playing with Playfulness Introduction to Global Justice Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	《異文化交流科目区分》 Cross-cultural Encounters 1 Cross-cultural Encounters 2 Cross-cultural Studies Cross-cultural Seminar Non-verbal Communication 《海外留学科目区分》 Academic Skills 1 Academic Skills 2 Global Engineer Program University of Hawaii Program

注①科目名の後ろにある○内数字は科目の単位数を示しています。記載されていない科目については全て 2 単位です。

注②科目名の前にある○印は履修指定科目を表しています。履修指定科目については P. 46 を確認してください。

注③科目名の前にある●印はコース基礎科目を表しています。コース基礎科目については P. 44 を確認してください。

注④卒業論文およびビジネスレポートの履修については P. 45～46 を確認してください。

注⑤留学生の履修方法についてはP.42を確認してください。
注⑥春学期または秋学期の科目配置は、担当者の条件等により臨時に変更されることがあります。「シラバス」および「時間割表」で確認してください。
注⑦教養科目については、分野を問わず履修することができます。ただし、(留)がつく科目は留学生への履修できません。

経営学科 戦略コースカリキュラム表 (2025年度入学生用)

要卒 124 単位以上		1 回生		2 回生	
専門科目 (74 単位以上)	総合基礎科目 (6 単位以上)	第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期
	◎企業と経営 ◎企業と会計	◎マーケティング論 ◎経済学入門 ◎マネジメント論			
	アカデミック・リテラシー科目	経営のための数学 I ◎情報処理演習 ◎基礎統計 簿記入門 I	経営のための数学 II 簿記入門 II	情報処理 英文簿記 I	英文簿記 II
	学部共通専門科目			日本経済論 ミクロ経済学 民法 I	世界経済論 マクロ経済学 民法 II
	小集団科目 ※注④	◎基礎演習	プロジェクト研究 プロジェクト研究 (GBL 型)	デクニカル・ビジット	プレゼミ
	自コース科目 (12 単位以上)			●経営戦略論 技術経営論 ●アントレプレナーシップ論 (E)	経営統計論 産業技術論 情報システム論 ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	国際経営学科	BSA I (外国留学特修科目)		BSA III (海外実習 I、II) 国際経営論	BSA II・IV (※各科目で単位認定) Integrated Marketing International Business 異文化マネジメント論
展開科目	戦略			アジア経済論 (A)	Corporate Accounting 近代アジア経済史 (A) 組織行動論
	マーケティング			企業論 マーケティング・リサーチ 流通論	経営史
	会計			交通システム論 会計学	デザイン経営論
				金融論 プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論) 経営学特殊講義 β 経営学特殊講義 β (遠隔授業)	企業分析論 会計制度論 資金調達論
	インテンシブプログラム (参考)	BSA I	プログラム特殊講義 (会計キャリア) IV	アジア経済論 (A) プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プロジェクト研究 (GBL 型)	BSA II・IV 近代アジア経済史 (A) デクニカル・ビジット
	アジアビジネスプログラム			アントレプレナーシップ論 (E)	ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	産学協同アントレプレナーシップ教育プログラム			英文簿記 I	英文簿記 II
外国語科目	英語コース	英語 R1 英語 SW1 英語 CALL1 資格英語演習 A1	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ① 英語 CALL2 ① 資格英語演習 A2	① Business English A1 ① Business English B1	① Business English A2 ① Business English B2
	2 言語コース ※注⑤	英語 R1 英語 SW1 ○○語・基礎 1 ○○語・基礎 2	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ② ○○語・展開 1 ① ○○語・展開 2	Business English A1 ① Business English A2	① Business English A2 ① Business English B2
	副専攻科目 (2 言語コース生希望者のみ)			(副) ○○語で学ぶ文化・社会 1 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 2	(副) ○○語で学ぶ文化・社会 1 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 2
				(副) ○○語・異文化コミュニケーション 1 (副) 映像・CALL で学ぶ○○語 1 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 1	(副) ○○語・異文化コミュニケーション 2 (副) 映像・CALL で学ぶ○○語 2 (副) ○○語で学ぶ文化・社会 2
教養科目 (24 単位以上)	立命館科目	教養基盤科目 (A 群)		国際教養科目 (B 群)	
	日本の近現代と立命館 ピア・サポート論 ジェンダーとダイバーシティ メディアと現代文化 市民と政治 日本国憲法 災害と安全 歴史観の形成 科学・技術と社会 実践データ科学 現代平和論 戦争の歴史と思想 平和人権フィールドスタディ	《第 1 分野 思想と人間》 哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 論理と思考 社会思想史 科学技術と倫理 宗教と社会 メンタルヘルス (留) 日本の文化・地理・歴史	現代の世界経済 社会と福祉 ソーシャルデザイン論 (留) 日本の社会・政治 (留) 日本の経済・経営	《国際教養科目区分》 Liberal Arts Seminar Introduction to Law Modern World History Japan and the West Introduction to Economics Kyoto and the Japanese Arts Special Lecture Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology Introduction to Natural Science Introduction to Humanities Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Gender Studies Introduction to Computational Linguistics History of Computing Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities Understanding Language Computers in Education Language in Politics Introductory Course to Climate Change and Global Warming Introductory Course to International Project Development Understanding Visual Culture Introduction to Food Culture Cross Border Policy Issues Playing with Playfulness Introduction to Global Justice Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	《異文化交流科目区分》 Cross-cultural Encounters 1 Cross-cultural Encounters 2 Cross-cultural Studies Cross-cultural Seminar Non-verbal Communication 《海外留学科目区分》 Academic Skills 1 Academic Skills 2 Global Engineer Program University of Hawaii Program
		《第 2 分野 現代と文化》 メディアと図書館 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代的教育 世界の言語と文化 世界と日本の食文化 観光学 京都学 (留) 日本語学	《第 5 分野 世界の史的構成》 エリアスタディ入門 新しい日本史像 中国の国家と社会 東アジアと朝鮮半島 ヨーロッパの歴史 アメリカの社会と文化 イスラーム世界の多様性		
		《第 3 分野 芸術と創造》 美と芸術の論理 音楽原論 映像と表現 映像メディア実践入門 文芸創作論	《第 6 分野 自然・科学と人類》 科学的な見方・考え方 宇宙科学 地球科学 生命科学 (分子と生命) 生命科学 (生物と生態系) 材料と化学 現代環境論 科学と技術の歴史 生命科学と倫理 近現代の科学技術 (留) 日本の自然・科学技術		
		《第 4 分野 社会・経済と統治》 国の行政組織 現代社会と法 経済と社会 現代日本の政治 日本経済概説	《第 7 分野 数理と情報》 数理の世界 情報の数理 情報科学 情報技術と社会 統計学 データサイエンス・AI 基礎 データエンジニアリング基礎		

注①科目名の後ろにある○内数字は科目の単位数を示しています。記載されていない科目については全て 2 単位です。

注②科目名の前にある◎印は履修指定科目を表しています。履修指定科目については P. 46 を確認してください。

注③科目名の前にある●印はコース基礎科目を表しています。コース基礎科目については P. 44 を確認してください。

注④卒業論文およびビジネスレポートの履修については P. 45～46 を確認してください。

3 回 生		4 回 生	
第 5 学 期	第 6 学 期	第 7 学 期	第 8 学 期
組織の経済学			
会社法 商法	金融法 労働法	税法 国際取引法	
ビジネス・インターンシップ			
専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ 卒業論文 ビジネスレポート
国際経営戦略論 オペレーションズ・リサーチ 生産システム論 経営情報論 ベンチャーファイナンス (E)	イノベーション戦略論 企業ネットワーク論 International Strategic Management 技術革新論	戦略経営論 Managing Multinational Enterprise	
国際マーケティング論 Cross-Cultural Management Research 企業文化論		Strategic Marketing	
経営組織論	International Corporate Culture International Accounting 日中ビジネス論 (A)	アジア経営論 (A) 人的資源管理論 企業倫理論	国際人的資源管理論 環境経営論
比較経営史	非営利組織論		
マーケティング・マネジメント	比較企業論 製品開発論 広告論	中小企業論 消費者行動論	
メディア・デザイン論 観光システム論 管理会計論 財務会計論 証券投資論	サービス・マーケティング論 原価計算論 連結会計論	監査論	
		国際金融論	コーポレートファイナンス
経営学特殊講義 γ			
アジア経営論 (A)	日中ビジネス論 (A)		
ベンチャーファイナンス (E)			
人的資源管理論 生産システム論 中小企業論		選択英語科目	
		Presentation 1 Discussion & Debate 1 Media English 1 News English 1 Academic Writing 1 Academic Reading Intercultural Communication English Workshop 1	Presentation 2 Discussion & Debate 2 Media English 2 News English 2 Academic Writing 2 Business Correspondence Comparative Culture English Workshop 2
副 専 攻 科 目			
(副) 時事○○語 1 (副) ○○語・比較文化論 1 (副) ○○語プレゼンテーション 1	(副) 時事○○語 2 (副) ○○語・比較文化論 2 (副) ○○語プレゼンテーション 2		
社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)	海外留学プログラム (単位授与科目 / 科目分野)	グローバル社会の体験と理解②／教養科目 Intensive Language Workshop ②／外国語 (選択英語科目) ※ Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー) ②／教養科目 Language for Academic Communication ②／外国語 (選択英語科目) ※ Global Project-Based Learning ②／教養科目 Area StudyⅠ ②／教養科目 Area StudyⅡ ④／教養科目 Global Study ④／教養科目 Academic Communication (Online Learning) ②／教養科目 Area Study (Online Learning) ②／教養科目	
(キャリア教育科目) 社会と学ぶ課題解決 学びとキャリア 仕事とキャリア コーオプ演習 (理論) コーオプ演習 (実践)			
(サービ斯拉ーニング科目) 地域参加学習入門 現代社会とボランティア 現代社会のフィールドワーク シチズンシップ・スタディーズ			
スポーツ・健康科目 (D 群)			
スポーツの歴史と発展 スポーツと現代社会 スポーツのサイエンス 現代人とヘルスケア スポーツ方法実習Ⅰ① スポーツ方法実習Ⅱ①			
学際総合科目 (E 群)			
教養ゼミナール 異文化間テーマ演習 超領域リベラルアーツ 単位互換科目①②④ 単位互換科目 (遠隔授業) ①②④ 特殊講義 (総合) ①②③④ APU 交流科目			
※→経営学科 2 言語コース「日本語＋初修外国語」を履修している外国人留学生は、単位授与の対象外とする。			

注⑤留学生の履修方法についてはP.42を確認してください。

注⑥春学期または秋学期の科目配置は、担当者の条件等により臨時に変更されることがあります。「シラバス」および「時間割表」で確認してください。

注⑦教養科目については、分野を問わず履修することができます。ただし、(留)がつく科目は留学生しか履修できません。

経営学科 マーケティングコースカリキュラム表（2025年度入学生用）

要卒 124 単位以上		1 回生		2 回生	
		第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期
専門科目（74 単位以上）	総合基礎科目 （6 単位以上）	○企業と経営 ○企業と会計	○マーケティング論 ○経済学入門 ○マネジメント論		
	アカデミック・リテラシー科目	経営のための数学Ⅰ ○情報処理演習 ○基礎統計 簿記入門Ⅰ	経営のための数学Ⅱ 簿記入門Ⅱ	情報処理 英文簿記Ⅰ	英文簿記Ⅱ 世界経済論
	学部共通専門科目			日本経済論 ミクロ経済学 民法Ⅰ	マクロ経済学 民法Ⅱ
	小集団科目 *注④	○基礎演習	プロジェクト研究 プロジェクト研究（GBL 型）	デクニカル・ビジット プレゼミ	
	自コース科目 （12 単位以上）			●マーケティング・リサーチ ●流通論	デザイン経営論
	国際経営学科	BSAⅠ（外国留学特修科目）		BSAⅢ（海外実習Ⅰ、Ⅱ） 国際経営論	BSAⅡ・Ⅳ（※各科目で単位認定） Integrated Marketing International Business 異文化マネジメント論
	戦略			アジア経済論（A） 経営戦略論	Corporate Accounting 近代アジア経済史（A）
	組織			技術経営論 アントレプレナーシップ論（E）	経営統計論 産業技術論 情報システム論 ベンチャー企業論（E） 事業開発論（E） 組織行動論
	会計			企業論 会計学 金融論	経営史 企業分析論 会計制度論 資金調達論
	展開科目	プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅰ プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅱ プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅲ 経営学特殊講義 a	プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅳ	プログラム特殊講義（アジアビジネス） プログラム特殊講義（事業継承経営） プログラム特殊講義（事業継承概論） 経営学特殊講義 β 経営学特殊講義 β（遠隔授業）	
外国語科目	アジアビジネスプログラム	BSAⅠ		アジア経済論（A） プログラム特殊講義（アジアビジネス） プロジェクト研究（GBL 型）	BSAⅡ・Ⅳ 近代アジア経済史（A）
	産学協同アントレプレナーシップ 教育プログラム			アントレプレナーシップ論（E） デクニカル・ビジット	ベンチャー企業論（E） 事業開発論（E） 英文簿記Ⅱ
	会計キャリアプログラム	プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅰ プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅱ プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅲ	プログラム特殊講義（会計キャリア）Ⅳ	英文簿記Ⅰ	
	事業継承教育プログラム			プログラム特殊講義（事業継承経営） プログラム特殊講義（事業継承概論）	プロジェクト研究
必修 （12 単位以上）	英語コース	英語 R1 英語 SW1 英語 CALL1 資格英語演習 A1	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ① 英語 CALL2 ① 資格英語演習 A2	Business English A1 Business English B1	① Business English A2 ① Business English B2
	2 言語コース *注⑤	英語 R1 英語 SW1 ○○語・基礎 1 ○○語・基礎 2	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ② ○○語・展開 1 ① ○○語・展開 2	Business English A1	① Business English A2
	副専攻科目 （2 言語コース生希望者のみ）			【初修外国語は、フランス語・スペイン語・ドイツ語・朝鮮語・中国語から一つの言語を選択します。】	
教養科目（24 単位以上）	立命館科目	教養基盤科目（A 群）		国際教養科目（B 群）	
	日本の近現代と立命館 ピア・サポート論 ジェンダーとダイバーシティ メディアと現代文化 市民と政治 日本国憲法 災害と安全 歴史観の形成 科学・技術と社会 実践データ科学 現代平和論 戦争の歴史と思想 平和人権フィールドスタディ	〈第 1 分野思想と人間〉 哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 論理と思考 社会思想史 科学技術と倫理 宗教と社会 メンタルヘルス （留）日本の文化・地理・歴史 〈第 2 分野現代と文化〉 メディアと図書館 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代的教育 世界の言語と文化 世界と日本の食文化 観光学 京都学 （留）日本語学 〈第 3 分野芸術と創造〉 美と芸術の論理 音楽原論 映像と表現 映像メディア実践入門 文芸創作論 〈第 4 分野社会・経済と統治〉 国の行政組織 現代社会と法 経済と社会 現代日本の政治 日本経済概説	現代の世界経済 社会と福祉 ソーシャルデザイン論 （留）日本の社会・政治 （留）日本の経済・経営 〈第 5 分野世界の史的構成〉 エリアスタディ入門 新しい日本史像 中国の国家と社会 東アジアと朝鮮半島 ヨーロッパの歴史 アメリカの社会と文化 イスラーム世界の多様性 〈第 6 分野自然・科学と人類〉 科学的な見方・考え方 宇宙科学 地球科学 生命科学（分子と生命） 生命科学（生物と生態系） 材料と化学 現代環境論 科学と技術の歴史 生命科学と倫理 近現代の科学技術 （留）日本の自然・科学技術 〈第 7 分野数理と情報〉 数理の世界 情報の数理 情報科学 情報技術と社会 統計学 データサイエンス・AI 基礎 データエンジニアリング基礎	〈国際教養科目区分〉 Liberal Arts Seminar Introduction to Law Modern World History Japan and the West Introduction to Economics Kyoto and the Japanese Arts Special Lecture Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology Introduction to Natural Science Introduction to Humanities Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Gender Studies Introduction to Computational Linguistics History of Computing Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities Understanding Language Computers in Education Language in Politics Introductory Course to Climate Change and Global Warming Introductory Course to International Project Development Understanding Visual Culture Introduction to Food Culture Cross Border Policy Issues Playing with Playfulness Introduction to Global Justice Sustainable Development Goals（SDGs）in a Nutshell	〈異文化交流科目区分〉 Cross-cultural Encounters 1 Cross-cultural Encounters 2 Cross-cultural Studies Cross-cultural Seminar Non-verbal Communication 〈海外留学科目区分〉 Academic Skills 1 Academic Skills 2 Global Engineer Program University of Hawaii Program

注①科目名の後ろにある○内数字は科目の単位数を示しています。記載されていない科目については全て 2 単位です。

注②科目名の前にある○印は履修指定科目を表しています。履修指定科目については P. 46 を確認してください。

注③科目名の前にある●印はコース基礎科目を表しています。コース基礎科目については P. 44 を確認してください。

注④卒業論文およびビジネスレポートの履修については P. 45～46 を確認してください。

3 回生		4 回生	
第 5 学期	第 6 学期	第 7 学期	第 8 学期
組織の経済学			
会社法 商法	金融法 労働法 ビジネス・インターンシップ	税法 国際取引法	
専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	専門演習Ⅳ 卒業論文 ビジネスレポート
国際マーケティング論 マーケティング・マネジメント	製品開発論 広告論	StrategicMarketing 消費者行動論	
メディア・デザイン論 観光システム論	サービス・マーケティング論		
国際経営戦略論 Managing Multinational Enterprise 企業文化論	International Strategic Management International Corporate Culture International Accounting 日中ビジネス論 (A) イノベーション戦略論 企業ネットワーク論	Cross-Cultural Management Research アジア経営論 (A) 戦略経営論	
オペレーションズ・リサーチ 生産システム論 経営情報論 ベンチャーファイナンス (E)	技術革新論		
経営組織論	非営利組織論	人的資源管理論 企業倫理論	国際人的資源管理論 環境経営論
比較経営史	比較企業論 原価計算論 連結会計論	中小企業論 監査論	
管理会計論 財務会計論 証券投資論		国際金融論	コーポレートファイナンス
経営学特殊講義 γ			
アジア経営論 (A)	日中ビジネス論 (A)		
ベンチャーファイナンス (E)			
人的資源管理論 生産システム論 中小企業論			
		選択英語科目	
		Presentation 1 Discussion & Debate 1 Media English 1 News English 1 Academic Writing 1 Academic Reading Intercultural Communication English Workshop 1	Presentation 2 Discussion & Debate 2 Media English 2 News English 2 Academic Writing 2 Business Correspondence Comparative Culture English Workshop 2
副 専 攻 科 目			
(副) 時事〇〇語 1 (副) 〇〇語・比較文化論 1 (副) 〇〇語プレゼンテーション 1	(副) 時事〇〇語 2 (副) 〇〇語・比較文化論 2 (副) 〇〇語プレゼンテーション 2		
社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)			
(キャリア教育科目) 社会と学ぶ課題解決 学びとキャリア 仕事とキャリア コーオプ演習 (理論) コーオプ演習 (実践)	グローバル社会の体験と理解②／教養科目 Intensive Language Workshop ②／外国語 (選択英語科目) ※ Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー) ②／教養科目 Language for Academic Communication ②／外国語 (選択英語科目) ※ Global Project-Based Learning ②／教養科目 Area Study I ②／教養科目 Area Study II ④／教養科目 Global Study ④／教養科目 Academic Communication (Online Learning) ②／教養科目 Area Study (Online Learning) ②／教養科目		
(サービスラーニング科目) 地域参加学習入門 現代社会とボランティア 現代社会のフィールドワーク シチズンシップ・スタディーズ			
スポーツ・健康科目 (D 群)			
スポーツの歴史と発展 スポーツと現代社会 スポーツのサイエンス 現代人とヘルスケア スポーツ方法実習Ⅰ① スポーツ方法実習Ⅱ①			
学際総合科目 (E 群)			
教養ゼミナール 異文化間テーマ演習 超領域リベラルアーツ 単位互換科目①②④ 単位互換科目 (遠隔授業) ①②④ 特殊講義 (総合) ①②③④ APU 交流科目			
※→経営学科 2 言語コース「日本語＋初修外国語」を履修している外国人留学生は、単位授与の対象外とする。			

注⑤留学生の履修方法については P. 42 を確認してください。

注⑥春学期または秋学期の科目配置は、担当者の条件等により臨時に変更されることがあります。「シラバス」および「時間割表」で確認してください。

注⑦教養科目については、分野を問わず履修することができます。ただし、(留) がつく科目は留学生しか履修できません。

経営学科 会計・ファイナンスコースカリキュラム表 (2025年度入学生用)

要 卒 124 単 位 以 上		1 回 生		2 回 生	
		第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期
専 門 科 目 (74 単 位 以 上)	総 合 基 礎 科 目 (6 単 位 以 上)	○企業と経営 ○企業と会計	○マーケティング論 ○経済学入門 ○マネジメント論		
	アカデミック・リテラシー科目	経営のための数学Ⅰ ○情報処理演習 ○基礎統計 簿記入門Ⅰ	経営のための数学Ⅱ 簿記入門Ⅱ	情報処理 英文簿記Ⅰ	英文簿記Ⅱ
	学 部 共 通 専 門 科 目			日本経済論 ミクロ経済学 民法Ⅰ	世界経済論 マクロ経済学 民法Ⅱ
	小集団科目 *注④	○基礎演習	プロジェクト研究 プロジェクト研究 (GBL型)	デジタル・ビジット	プレゼミ
	自 コ ー ス 科 目 (1 2 単 位 以 上)			●会計学 ●金融論	企業分析論 会計制度論 資金調達論
	国際経営学科	BSAⅠ (外国留学特修科目)		BSAⅢ (海外実習Ⅰ、Ⅱ) 国際経営論	BSAⅡ・Ⅳ (※各科目で単位認定) Integrated Marketing International Business 異文化マネジメント論
	組 織			アジア経済論 (A)	Corporate Accounting 近代アジア経済史 (A) 組織行動論
	展 開 科 目			企業論 経営戦略論	経営史
	戦 略			技術経営論	経営統計論 産業技術論 情報システム論 ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	マーケティング			アントレプレナーシップ論 (E) マーケティング・リサーチ 流通論	デザイン経営論
イ ン テ ン シ ン グ プ ロ グ ラ ム (参 考)	アジアビジネスプログラム	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅰ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅱ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅲ 経営学特殊講義 α	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	アジア経済論 (A) プログラム特殊講義 (アジアビジネス) プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論) 経営学特殊講義 β 経営学特殊講義 β (遠隔授業)	BSAⅡ・Ⅳ 近代アジア経済史 (A)
	産学協同アントレプレナーシップ 教 育 プ ロ グ ラ ム			アントレプレナーシップ論 (E) テクニカル・ビジット	ベンチャー企業論 (E) 事業開発論 (E)
	会 計 キ ャ リ ア プ ロ グ ラ ム	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅰ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅱ プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅲ	プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	英文簿記Ⅰ	英文簿記Ⅱ
	事業継承教育プログラム			プログラム特殊講義 (事業継承経営) プログラム特殊講義 (事業継承概論)	プロジェクト研究
外 国 語 科 目	英 語 コ ー ス	英語 R1 英語 SW1 英語 CALL1 資格英語演習 A1	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ① 英語 CALL2 ① 資格英語演習 A2	① Business English A1 ① Business English B1	① Business English A2 ① Business English B2 (選 択 英 語 ②)
	2 言 語 コ ー ス *注⑤	英語 R1 英語 SW1 ○〇語・基礎 1 ○〇語・基礎 2	① 英語 R2 ① 英語 SW2 ② ○〇語・展開 1 ① ○〇語・展開 2	① Business English A1	① Business English A2 (選 択 英 語 ②)
	副 専 攻 科 目 (2 言語コース生希望者のみ)			(副) ○〇語・異文化コミュニケーション 1 (副) 映像・CALLで学ぶ○〇語 1 (副) ○〇語で学ぶ文化・社会 1	(副) ○〇語・異文化コミュニケーション 2 (副) 映像・CALLで学ぶ○〇語 2 (副) ○〇語で学ぶ文化・社会 2
教 養 科 目 (24 単 位 以 上)	立命館科目	教養基盤科目 (A 群)		国際教養科目 (B 群)	
	日本の近現代と立命館 ピア・サポート論 ジェンダーとダイバーシティ メディアと現代文化 市民と政治 日本国憲法 災害と安全 歴史観の形成 科学・技術と社会 実践データ科学 現代平和論 戦争の歴史と思想 平和人権フィールドスタディ	〈第 1 分野 思想と人間〉 哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 論理と思考 社会思想史 科学技術と倫理 宗教と社会 メンタルヘルス (留) 日本の文化・地理・歴史 〈第 2 分野 現代と文化〉 メディアと図書館 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代的教育 世界の言語と文化 世界と日本の食文化 観光学 京都学 (留) 日本語学 〈第 3 分野 芸術と創造〉 美と芸術の論理 音楽原論 映像と表現 映像メディア実践入門 文芸創作論 〈第 4 分野 社会・経済と統治〉 国の行政組織 現代社会と法 経済と社会 現代日本の政治 現代の国際関係と日本 日本経済概説		〈国際教養科目区分〉 Liberal Arts Seminar Introduction to Law Modern World History Japan and the West Introduction to Economics Kyoto and the Japanese Arts Special Lecture Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology Introduction to Natural Science Introduction to Humanities Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Gender Studies Introduction to Computational Linguistics History of Computing Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities Understanding Language Computers in Education Language in Politics Introductory Course to Climate Change and Global Warming Introductory Course to International Project Development Understanding Visual Culture Introduction to Food Culture Cross Border Policy Issues Playing with Playfulness Introduction to Global Justice Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell 〈異文化交流科目区分〉 Cross-cultural Encounters 1 Cross-cultural Encounters 2 Cross-cultural Studies Cross-cultural Seminar Non-verbal Communication 〈海外留学科目区分〉 Academic Skills 1 Academic Skills 2 Global Engineer Program University of Hawaii Program	

注①科目名の後ろにある○内数字は科目の単位数を示しています。記載されていない科目については全て 2 単位です。

注②科目名の前にある○印は履修指定科目を表しています。履修指定科目については P. 46 を確認してください。

注③科目名の前にある●印はコース基礎科目を表しています。コース基礎科目については P. 44 を確認してください。

注④卒業論文およびビジネスレポートの履修については P. 45～46 を確認してください。

3 回生		4 回生	
第 5 学期	第 6 学期	第 7 学期	第 8 学期
組織の経済学			
会社法 商法	金融法 労働法	税法 国際取引法	
専門演習 I	ビジネス・インターンシップ	専門演習 II	専門演習 III
管理会計論 財務会計論 証券投資論	原価計算論 連結会計論	監査論 国際金融論	専門演習 IV 卒業論文 ビジネスレポート International Accounting コーポレートファイナンス
国際マーケティング論 国際経営戦略論 Managing Multinational Enterprise 企業文化論	International Strategic Management International Corporate Culture	Strategic Marketing Cross-Cultural Management Research	
経営組織論	日中ビジネス論 (A)	アジア経営論 (A) 人的資源管理論 企業倫理論	国際人的資源管理論 環境経営論
比較経営史	非営利組織論	中小企業論 戦略経営論	
オペレーションズ・リサーチ 生産システム論 経営情報論 ベンチャーファイナンス (E)	比較企業論 イノベーション戦略論 企業ネットワーク論		
マーケティング・マネジメント	技術革新論		
メディア・デザイン論 観光システム論	製品開発論 広告論	消費者行動論	
経営学特殊講義 γ	サービス・マーケティング論		
アジア経営論 (A)	日中ビジネス論 (A)		
ベンチャーファイナンス (E)			
人的資源管理論 生産システム論 中小企業論			
		選択英語科目	
		Presentation 1 Discussion & Debate 1 Media English 1 News English 1 Academic Writing 1 Academic Reading Intercultural Communication English Workshop 1	Presentation 2 Discussion & Debate 2 Media English 2 News English 2 Academic Writing 2 Business Correspondence Comparative Culture English Workshop 2
副 専 攻 科 目			
(副) 時事○○語 1 (副) ○○語・比較文化論 1 (副) ○○語プレゼンテーション 1	(副) 時事○○語 2 (副) ○○語・比較文化論 2 (副) ○○語プレゼンテーション 2		
社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)			
〈キャリア教育科目〉 社会と学ぶ課題解決 学びとキャリア 仕事とキャリア コーポ演習 (理論) コーポ演習 (実践)	海外留学プログラム (単位授与科目 / 科目分野)	グローバル社会の体験と理解② / 教養科目 Intensive Language Workshop ② / 外国語 (選択英語科目) ※ Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー) ② / 教養科目 Language for Academic Communication ② / 外国語 (選択英語科目) ※ Global Project-Based Learning ② / 教養科目 Area Study I ② / 教養科目 Area Study II ④ / 教養科目 Global Study ④ / 教養科目 Academic Communication (Online Learning) ② / 教養科目 Area Study (Online Learning) ② / 教養科目	
〈サービスマスタープログラム〉 地域参加学習入門 現代社会とボランティア 現代社会のフィールドワーク シチズンシップ・スタディーズ			
スポーツ・健康科目 (D 群)			
スポーツの歴史と発展 スポーツと現代社会 スポーツのサイエンス 現代人とヘルスケア スポーツ方法実習 I ① スポーツ方法実習 II ①			
国際総合科目 (E 群)			
教養ゼミナール 異文化間テーマ演習 超領域リベラルアーツ 単位互換科目 ①②④ 単位互換科目 (遠隔授業) ①②④ 特殊講義 (総合) ①②③④ APU 交流科目			
		※→経営学科 2 言語コース「日本語 + 初修外国語」を履修している外国人留学生は、単位授与の対象外とする。	

注⑤留学生の履修方法については P. 42 を確認してください。

注⑥春学期または秋学期の科目配置は、担当者の条件等により臨時に変更されることがあります。「シラバス」および「時間割表」で確認してください。

注⑦教養科目については、分野を問わず履修することができます。ただし、(留) がつく科目は留学生しか履修できません。

Ⅱ－5

科目概要

科目概要については、manaba+R「経営学部生のページ」に記載しています。
manaba+R「経営学部生のページ」→「トップページ」→「経営学部の履修」→「科目概要」をクリック

Ⅱ－6

科目ナンバリング

1. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に当該科目のカリキュラム上の位置づけに対応する番号を付すことで、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。

2. 科目ナンバリングの方式

2.1 専門科目・外国語科目

C	B	A	S	A	0	1	1	1	J
学部・横断科目			科目分野	科目区分	科目番号		授業形態	配当回生	使用言語
①			②	③	④		⑤	⑥	⑦

① 3桁のアルファベットで学部・全学横断科目の区分を表しています。

【学部・全学横断科目の区分コード】

経営学部：CBA

② 1桁のアルファベットで科目分野を表しています。

【科目分野コード】

専門科目：S、外国語科目：L

③ 1桁のアルファベットで科目区分を表しています。

【科目区分コード】

<専門科目>

A	総合基礎科目
B	アカデミック・リテラシー科目
C	学部共通科目
D	実習科目
E	小集団科目
F	組織コース科目
G	戦略コース科目
H	マーケティングコース科目
I	会計・ファイナンスコース科目
J	国際経営学科科目
K	特殊講義科目
L	留学プログラム科目

<外国語科目>

E	英語
G	ドイツ語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
F	フランス語
J	日本語

④ 整理番号として2桁の数字で科目番号を表しています。

⑤ 1桁の数字で授業形態を表しています。

【授業形態コード】

1	講義科目
2	小集団科目
3	演習科目
4	その他形態科目

⑥ 1桁の数字で配当回生を表しています。

【配当回生コード】

1	学部1年次相当
2	学部2年次相当
3	学部3年次相当
4	学部4年次相当

2.2 教養科目

- ⑦ 1桁のアルファベットで使用言語を表しています。

【使用言語コード】

J	日本語開講
E	英語開講
O	英語以外の外国語開講
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

C	G	E	2	2	A	A	1	0	1	J
学部・横断科目			カリキュラム年度		科目区分		配当 回生	分類番号		使用言語
①			②		③		④	⑤		⑥

- ① 3桁のアルファベットで学部・研究科・全学横断科目の区分を表しています。

【学部・全学横断科目の区分コード】

教養科目：CGE

- ② 2桁の数字はカリキュラム年度を表しています。
- ③ 2桁のアルファベットで科目区分を表しています。

【科目区分コード】

RA	立命館科目
AA	教養基盤科目（A群）「第1分野 思想と人間」
AB	教養基盤科目（A群）「第2分野 現代と文化」
AC	教養基盤科目（A群）「第3分野 芸術と創造」
AD	教養基盤科目（A群）「第4分野 社会・経済と統治」
AE	教養基盤科目（A群）「第5分野 世界の史的構成」
AF	教養基盤科目（A群）「第6分野 自然・科学と人類」
AG	教養基盤科目（A群）「第7分野 数理と情報」
BA	国際教養科目（B群）「国際教養科目区分」
BB	国際教養科目（B群）「異文化交流科目区分」
BC	国際教養科目（B群）「海外留学科目区分」
CA	社会で学ぶ自己形成科目（C群）キャリア教育センター主管科目
CB	社会で学ぶ自己形成科目（C群）サービスラーニングセンター主管科目
DA	スポーツ・健康科目（D群）講義系科目
DB	スポーツ・健康科目（D群）実習系科目
EA	学際総合科目（E群）

- ④ 1桁の数字で配当回生を表しています。

【配当回生コード】

1	学部1年次相当
2	学部2年次相当
3	学部3年次相当
4	学部4年次相当

- ⑤ 整理番号として2桁の数字で分類番号を表しています。
- ⑥ 1桁のアルファベットで使用言語を表しています。

【使用言語コード】

J	日本語開講
E	英語開講
O	英語以外の外国語開講
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

科目分野	科目ナンバリング	科目名
専門科目	総合基礎科目	CBA-SA01-1-1-J 企業と経営
		CBA-SA02-1-1-J 企業と会計
		CBA-SA03-1-1-J マーケティング論
		CBA-SA04-1-1-J 経済学入門
		CBA-SA05-1-1-J マネジメント論
	学部共通専門科目 (アカデミック・リテラシー)	CBA-SB01-1-1-J 経営のための数学Ⅰ
		CBA-SB02-1-1-J 情報処理演習
		CBA-SB03-1-1-J 基礎統計
		CBA-SB04-1-1-J 簿記入門Ⅰ
		CBA-SB05-1-1-J 経営のための数学Ⅱ
		CBA-SB06-1-1-J 簿記入門Ⅱ
		CBA-SB07-1-2-J 情報処理
		CBA-SB08-1-2-J 英文簿記Ⅰ
		CBA-SB09-1-2-J 英文簿記Ⅱ
		CBA-SC01-1-2-J 日本経済論
	学部共通専門科目	CBA-SC02-1-2-J ミクロ経済学
		CBA-SC03-1-2-J 民法Ⅰ
		CBA-SC04-1-2-J 世界経済論
		CBA-SC05-1-2-J マクロ経済学
		CBA-SC06-1-2-J 民法Ⅱ
		CBA-SC07-1-3-J 組織の経済学
		CBA-SC08-1-3-J 会社法
		CBA-SC09-1-3-J 商法
		CBA-SC10-1-3-J 金融法
		CBA-SC11-1-3-J 労働法
		CBA-SC12-1-3-J 税法
		CBA-SC13-1-3-J 国際取引法
	展開専門その他（実習科目）	CBA-SD01-4-2-J テクニカル・ビジット
		CBA-SD02-4-3-J ビジネス・インターンシップ
	小集団科目	CBA-SE01-2-1-J 基礎演習
		CBA-SE03-2-1-B プロジェクト研究（GBL型）
		CBA-SE04-2-1-J プロジェクト研究
		CBA-SE05-2-2-J プレゼミ
		CBA-SE05-2-3-J 専門演習Ⅰ
		CBA-SE06-2-3-J 専門演習Ⅱ
		CBA-SE07-2-4-J 専門演習Ⅲ
		CBA-SE08-2-4-J 専門演習Ⅳ
		CBA-SE09-2-4-J 卒業論文
		CBA-SE10-2-4-J ビジネスレポート
	組織コース科目	CBA-SF01-1-2-J 企業論
		CBA-SF02-1-2-J 組織行動論
		CBA-SF03-1-2-J 経営史
		CBA-SF04-1-3-J 経営組織論
		CBA-SF05-1-3-J 比較経営史
		CBA-SF06-1-3-J 非営利組織論
		CBA-SF07-1-3-J 比較企業論
		CBA-SF08-1-3-J 人的資源管理論
		CBA-SF09-1-3-J 企業倫理論
		CBA-SF10-1-3-J 中小企業論
		CBA-SF11-1-3-J 国際人的資源管理論
		CBA-SF12-1-3-J 環境経営論
	戦略コース科目	CBA-SG01-1-2-J 経営戦略論
		CBA-SG02-1-2-J アントレプレナーシップ論（E）
		CBA-SG03-1-2-J 技術経営論
		CBA-SG04-1-2-J 経営統計論
		CBA-SG05-1-2-J 産業技術論
		CBA-SG06-1-2-J 情報システム論
		CBA-SG07-1-2-J ベンチャー企業論（E）
		CBA-SG08-1-2-J 事業開発論（E）
		CBA-SG09-1-3-J オペレーションズ・リサーチ
		CBA-SG10-1-3-J 生産システム論
		CBA-SG11-1-3-J 経営情報論
		CBA-SG12-1-3-J ベンチャーファイナンス（E）
		CBA-SG13-1-3-J イノベーション戦略論
		CBA-SG14-1-3-J 企業ネットワーク論
		CBA-SG15-1-3-J 技術革新論
		CBA-SG16-1-3-J 戦略経営論

科目分野	科目ナンバリング	科目名
専門科目	マーケティングコース科目	CBA-SH01-1-2-J マーケティング・リサーチ
		CBA-SH02-1-2-J 流通論
		CBA-SH03-1-2-J 交通システム論
		CBA-SH04-1-2-J デザイン経営論
		CBA-SH05-1-3-J マーケティング・マネジメント
		CBA-SH06-1-3-J メディア・デザイン論
		CBA-SH07-1-3-J 観光システム論
		CBA-SH08-1-3-J 製品開発論
		CBA-SH09-1-3-J 広告論
		CBA-SH10-1-3-J サービス・マーケティング論
		CBA-SH11-1-3-J 消費者行動論
	会計・ファイナンスコース科目	CBA-SI01-1-2-J 会計学
		CBA-SI02-1-2-J 金融論
		CBA-SI03-1-2-J 企業分析論
		CBA-SI04-1-2-J 会計制度論
		CBA-SI05-1-2-J 資金調達論
		CBA-SI06-1-3-J 管理会計論
		CBA-SI07-1-3-J 財務会計論
		CBA-SI08-1-3-J 証券投資論
		CBA-SI09-1-3-J 原価計算論
		CBA-SI10-1-3-J 連結会計論
		CBA-SI11-1-3-J 監査論
	国際経営学科科目	CBA-SI12-1-3-J 国際金融論
		CBA-SI13-1-3-J コーポレートファイナンス
		CBA-SJ01-1-2-J 国際経営論
		CBA-SJ02-1-2-J アジア経済論 (A)
		CBA-SJ03-1-2-M 英語経営学入門 I
		CBA-SJ04-1-2-E Integrated Marketing
		CBA-SJ05-1-2-E International Business
		CBA-SJ06-1-2-J 異文化マネジメント論
		CBA-SJ07-1-2-E Corporate Accounting
		CBA-SJ08-1-2-J 近代アジア経済史 (A)
		CBA-SJ09-1-2-M 英語経営学入門 II
		CBA-SJ10-1-3-J 国際マーケティング論
		CBA-SJ11-1-3-J 国際経営戦略論
		CBA-SJ12-1-3-J 企業文化論
		CBA-SJ13-1-3-E International Strategic Management
		CBA-SJ14-1-3-E International Corporate Culture
		CBA-SJ15-1-3-E International Accounting
		CBA-SJ16-1-3-J 日中ビジネス論 (A)
	特殊講義科目	CBA-SJ17-1-3-E Strategic Marketing
		CBA-SJ18-1-3-E Managing Multinational Enterprise
		CBA-SJ19-1-3-E Cross-Cultural Management Research
		CBA-SJ20-1-3-J アジア経営論 (A)
		CBA-SK01-1-1-B 経営学特殊講義 α
		CBA-SK02-1-2-B 経営学特殊講義 β
		CBA-SK03-1-3-B 経営学特殊講義 γ
		CBA-SK04-1-1-J プログラム特殊講義 (会計キャリア) I
		CBA-SK05-1-1-J プログラム特殊講義 (会計キャリア) II
		CBA-SK06-1-1-J プログラム特殊講義 (会計キャリア) III
		CBA-SK07-1-1-J プログラム特殊講義 (会計キャリア) IV
	海外留学プログラム科目	CBA-SK08-1-2-J プログラム特殊講義 (アジアビジネス)
		CBA-SK09-1-2-J プログラム特殊講義 (事業継承経営)
		CBA-SK10-1-2-J プログラム特殊講義 (事業継承概論)
	海外留学プログラム科目	CBA-SK11-1-2-J 経営学特殊講義 β (遠隔授業)
		CBA-SL01-4-1-B 海外実習 I
		CBA-SL02-4-1-B 海外実習 II
	海外留学プログラム科目	CBA-SL03-4-1-B 外国留学特修科目

科目分野	科目ナンバリング	科目名
外国語科目	英語	CBA-LE01-3-1-M 英語 R 1
		CBA-LE02-3-1-M 英語 W 1
		CBA-LE03-3-1-M 英語 L 1
		CBA-LE04-3-1-M 英語 S 1
		CBA-LE05-3-1-M 英語 C A L L 1
		CBA-LE06-3-1-M 留学英語演習 1
		CBA-LE07-3-1-M 英語 S W 1
		CBA-LE08-3-1-M 資格英語演習 A 1
		CBA-LE09-3-1-M 英語 R 2
		CBA-LE10-3-1-M 英語 W 2
		CBA-LE11-3-1-M 英語 L 2
		CBA-LE12-3-1-M 英語 S 2
		CBA-LE13-3-1-M 英語 C A L L 2
		CBA-LE14-3-1-M 留学英語演習 2
		CBA-LE15-3-1-M 英語 S W 2
		CBA-LE16-3-1-M 資格英語演習 A 2
		CBA-LE17-3-2-M Business English A 1
		CBA-LE18-3-2-M Business English B 1
		CBA-LE19-3-2-M 資格英語演習 B 1
		CBA-LE20-3-2-M Step-up English1
		CBA-LE21-3-2-M Business English A 2
		CBA-LE22-3-2-M Business English B 2
		CBA-LE23-3-2-M 資格英語演習 B 2
		CBA-LE24-3-2-M Step-up English2
		CBA-LE25-1-2-M Presentation 1
		CBA-LE26-1-2-M Discussion & Debate 1
		CBA-LE27-1-2-M Media English 1
		CBA-LE28-1-2-M News English 1
		CBA-LE29-1-2-M Academic Writing 1
		CBA-LE30-1-2-M Academic Reading
		CBA-LE31-1-2-M Intercultural Communication
		CBA-LE32-1-2-M English Workshop 1
		CBA-LE33-1-2-M Presentation 2
		CBA-LE34-1-2-M Discussion & Debate 2
		CBA-LE35-1-2-M Media English 2
		CBA-LE36-1-2-M News English 2
		CBA-LE37-1-2-M Academic Writing 2
		CBA-LE38-1-2-M Business Correspondence
		CBA-LE39-1-2-M Comparative Culture
		CBA-LE40-1-2-M English Workshop 2
		CBA-LE41-1-3-M プロジェクト英語
		CBA-LE42-3-3-M 英語実習 1
		CBA-LE43-3-3-M 英語実習 2
		CBA-LE44-3-3-M 資格英語演習 B 3
		CBA-LE45-3-3-M Step-up English3
		CBA-LE46-3-3-M 資格英語演習 B 4
		CBA-LE47-3-3-M Step-up English4
		CBA-LE48-4-1-M Intensive Language Workshop
		CBA-LE49-4-1-M Language for Academic Communication
	中国語	CBA-LC01-3-1-M 中国語・基礎 1
		CBA-LC02-3-1-M 中国語・展開 1
		CBA-LC03-3-1-M 中国語・基礎 2
		CBA-LC04-3-1-M 中国語・展開 2
		CBA-LC05-1-2-M 中国語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LC06-1-2-M 映像・CALL で学ぶ中国語 1
		CBA-LC07-1-2-M 中国語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LC08-1-2-M 中国語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LC09-1-2-M 映像・CALL で学ぶ中国語 2
		CBA-LC10-1-2-M 中国語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LC11-1-3-M 時事中国語 1
		CBA-LC12-1-3-M 中国語・比較文化論 1
		CBA-LC13-1-3-M 中国語プレゼンテーション 1
		CBA-LC14-1-3-M 時事中国語 2
		CBA-LC15-1-3-M 中国語・比較文化論 2
		CBA-LC16-1-3-M 中国語プレゼンテーション 2
	中国語（副専攻）	CBA-LC17-1-2-M (副) 中国語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LC18-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶ中国語 1
		CBA-LC19-1-2-M (副) 中国語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LC20-1-2-M (副) 中国語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LC21-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶ中国語 2
		CBA-LC22-1-2-M (副) 中国語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LC23-1-3-M (副) 時事中国語 1
		CBA-LC24-1-3-M (副) 中国語・比較文化論 1
		CBA-LC25-1-3-M (副) 中国語プレゼンテーション 1
		CBA-LC26-1-3-M (副) 時事中国語 2
		CBA-LC27-1-3-M (副) 中国語・比較文化論 2
		CBA-LC28-1-3-M (副) 中国語プレゼンテーション 2

科目分野	科目ナンバリング	科目名
外国語科目	フランス語	CBA-LF01-3-1-M フランス語・基礎 1
		CBA-LF02-3-1-M フランス語・展開 1
		CBA-LF03-3-1-M フランス語・基礎 2
		CBA-LF04-3-1-M フランス語・展開 2
		CBA-LF05-1-2-M フランス語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LF06-1-2-M 映像・CALL で学ぶフランス語 1
		CBA-LF07-1-2-M フランス語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LF08-1-2-M フランス語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LF09-1-2-M 映像・CALL で学ぶフランス語 2
		CBA-LF10-1-2-M フランス語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LF11-1-3-M 時事フランス語 1
		CBA-LF12-1-3-M フランス語・比較文化論 1
		CBA-LF13-1-3-M フランス語プレゼンテーション 1
		CBA-LF14-1-3-M 時事フランス語 2
		CBA-LF15-1-3-M フランス語・比較文化論 2
		CBA-LF16-1-3-M フランス語プレゼンテーション 2
	フランス語（副専攻）	CBA-LF17-1-2-M (副) フランス語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LF18-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶフランス語 1
		CBA-LF19-1-2-M (副) フランス語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LF20-1-2-M (副) フランス語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LF21-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶフランス語 2
		CBA-LF22-1-2-M (副) フランス語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LF23-1-3-M (副) 時事フランス語 1
		CBA-LF24-1-3-M (副) フランス語・比較文化論 1
		CBA-LF25-1-3-M (副) フランス語プレゼンテーション 1
		CBA-LF26-1-3-M (副) 時事フランス語 2
		CBA-LF27-1-3-M (副) フランス語・比較文化論 2
		CBA-LF28-1-3-M (副) フランス語プレゼンテーション 2
	ドイツ語	CBA-LG01-3-1-M ドイツ語・基礎 1
		CBA-LG02-3-1-M ドイツ語・展開 1
		CBA-LG03-3-1-M ドイツ語・基礎 2
		CBA-LG04-3-1-M ドイツ語・展開 2
		CBA-LG05-1-2-M ドイツ語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LG06-1-2-M 映像・CALL で学ぶドイツ語 1
		CBA-LG07-1-2-M ドイツ語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LG08-1-2-M ドイツ語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LG09-1-2-M 映像・CALL で学ぶドイツ語 2
		CBA-LG10-1-2-M ドイツ語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LG11-1-3-M 時事ドイツ語 1
		CBA-LG12-1-3-M ドイツ語・比較文化論 1
		CBA-LG13-1-3-M ドイツ語プレゼンテーション 1
		CBA-LG14-1-3-M 時事ドイツ語 2
		CBA-LG15-1-3-M ドイツ語・比較文化論 2
		CBA-LG16-1-3-M ドイツ語プレゼンテーション 2
	ドイツ語（副専攻）	CBA-LG17-1-2-M (副) ドイツ語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LG18-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶドイツ語 1
		CBA-LG19-1-2-M (副) ドイツ語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LG20-1-2-M (副) ドイツ語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LG21-1-2-M (副) 映像・CALL で学ぶドイツ語 2
		CBA-LG22-1-2-M (副) ドイツ語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LG23-1-3-M (副) 時事ドイツ語 1
		CBA-LG24-1-3-M (副) ドイツ語・比較文化論 1
		CBA-LG25-1-3-M (副) ドイツ語プレゼンテーション 1
		CBA-LG26-1-3-M (副) 時事ドイツ語 2
		CBA-LG27-1-3-M (副) ドイツ語・比較文化論 2
		CBA-LG28-1-3-M (副) ドイツ語プレゼンテーション 2
	朝鮮語	CBA-LK01-3-1-M 朝鮮語・基礎 1
		CBA-LK02-3-1-M 朝鮮語・展開 1
		CBA-LK03-3-1-M 朝鮮語・基礎 2
		CBA-LK04-3-1-M 朝鮮語・展開 2
		CBA-LK05-1-2-M 朝鮮語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LK06-1-2-M 映像・CALL で学ぶ朝鮮語 1
		CBA-LK07-1-2-M 朝鮮語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LK08-1-2-M 朝鮮語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LK09-1-2-M 映像・CALL で学ぶ朝鮮語 2
		CBA-LK10-1-2-M 朝鮮語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LK11-1-3-M 時事朝鮮語 1
		CBA-LK12-1-3-M 朝鮮語・比較文化論 1
		CBA-LK13-1-3-M 朝鮮語プレゼンテーション 1
		CBA-LK14-1-3-M 時事朝鮮語 2
		CBA-LK15-1-3-M 朝鮮語・比較文化論 2
		CBA-LK16-1-3-M 朝鮮語プレゼンテーション 2

科目分野		科目ナンバリング	科目名
外国語科目	朝鮮語（副専攻）	CBA-LK17-1-2-M	(副) 朝鮮語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LK18-1-2-M	(副) 映像・CALL で学ぶ朝鮮語 1
		CBA-LK19-1-2-M	(副) 朝鮮語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LK20-1-2-M	(副) 朝鮮語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LK21-1-2-M	(副) 映像・CALL で学ぶ朝鮮語 2
		CBA-LK22-1-2-M	(副) 朝鮮語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LK23-1-3-M	(副) 時事朝鮮語 1
		CBA-LK24-1-3-M	(副) 朝鮮語・比較文化論 1
		CBA-LK25-1-3-M	(副) 朝鮮語プレゼンテーション 1
		CBA-LK26-1-3-M	(副) 時事朝鮮語 2
		CBA-LK27-1-3-M	(副) 朝鮮語・比較文化論 2
		CBA-LK28-1-3-M	(副) 朝鮮語プレゼンテーション 2
	スペイン語	CBA-LS01-3-1-M	スペイン語・基礎 1
		CBA-LS02-3-1-M	スペイン語・展開 1
		CBA-LS03-3-1-M	スペイン語・基礎 2
		CBA-LS04-3-1-M	スペイン語・展開 2
		CBA-LS05-1-2-M	スペイン語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LS06-1-2-M	映像・CALL で学ぶスペイン語 1
		CBA-LS07-1-2-M	スペイン語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LS08-1-2-M	スペイン語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LS09-1-2-M	映像・CALL で学ぶスペイン語 2
		CBA-LS10-1-2-M	スペイン語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LS11-1-3-M	時事スペイン語 1
		CBA-LS12-1-3-M	スペイン語・比較文化論 1
		CBA-LS13-1-3-M	スペイン語プレゼンテーション 1
		CBA-LS14-1-3-M	時事スペイン語 2
		CBA-LS15-1-3-M	スペイン語・比較文化論 2
		CBA-LS16-1-3-M	スペイン語プレゼンテーション 2
	スペイン語（副専攻）	CBA-LS17-1-2-M	(副) スペイン語・異文化コミュニケーション 1
		CBA-LS18-1-2-M	(副) 映像・CALL で学ぶスペイン語 1
		CBA-LS19-1-2-M	(副) スペイン語で学ぶ文化・社会 1
		CBA-LS20-1-2-M	(副) スペイン語・異文化コミュニケーション 2
		CBA-LS21-1-2-M	(副) 映像・CALL で学ぶスペイン語 2
		CBA-LS22-1-2-M	(副) スペイン語で学ぶ文化・社会 2
		CBA-LS23-1-3-M	(副) 時事スペイン語 1
		CBA-LS24-1-3-M	(副) スペイン語・比較文化論 1
		CBA-LS25-1-3-M	(副) スペイン語プレゼンテーション 1
		CBA-LS26-1-3-M	(副) 時事スペイン語 2
		CBA-LS27-1-3-M	(副) スペイン語・比較文化論 2
		CBA-LS28-1-3-M	(副) スペイン語プレゼンテーション 2
	日本語	CBA-LJ01-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（文章表現 a）
		CBA-LJ02-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（読解 a）
		CBA-LJ03-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（聴解口頭 a）
		CBA-LJ04-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（文章表現 b）
		CBA-LJ05-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（読解 b）
		CBA-LJ06-3-1-J	(留) 日本語Ⅶ（聴解口頭 b）
		CBA-LJ07-3-2-J	(留) 日本語Ⅷ（アカデミック日本語 a）
		CBA-LJ08-3-2-J	(留) 日本語Ⅷ（キャリア日本語 a）
		CBA-LJ09-3-2-J	(留) 日本語Ⅷ（アカデミック日本語 b）
		CBA-LJ10-3-2-J	(留) 日本語Ⅷ（キャリア日本語 b）

科目分野		科目ナンバリング	科目名
立命館科目	—	CGE20RA101-J	日本の近現代と立命館
		CGE20RA102-J	ピア・サポート論
		CGE20RA103-J	ジェンダーとダイバーシティ
		CGE20RA104-J	メディアと現代文化
		CGE20RA105-J	市民と政治
		CGE20RA106-J	日本国憲法
		CGE20RA107-J	災害と安全
		CGE20RA108-J	歴史観の形成
		CGE20RA109-J	科学・技術と社会
		CGE20RA110-J	実践データ科学
		CGE20RA111-J	現代平和論
		CGE20RA112-J	戦争の歴史と思想
		CGE20RA213-J	平和人権フィールドスタディ
教養科目	第 1 分野 思想と人間	CGE20AA101-J	哲学と人間
		CGE20AA102-J	人間性と倫理
		CGE20AA103-J	心理学入門
		CGE20AA104-J	論理と思考
		CGE20AA105-J	社会思想史
		CGE20AA106-J	科学技術と倫理
		CGE20AA107-J	宗教と社会
		CGE20AA108-J	メンタルヘルス
		CGE20AA109-J	(留) 日本の文化・地理・歴史
	第 2 分野 現代と文化	CGE20AB101-J	メディアと図書館
		CGE20AB102-J	社会学入門
		CGE20AB103-J	文化人類学入門
		CGE20AB104-J	文学と社会
		CGE20AB105-J	現代の教育
		CGE20AB106-J	世界の言語と文化
		CGE20AB107-J	世界と日本の食文化
		CGE20AB108-J	観光学
		CGE20AB109-J	京都市学
		CGE20AB210-J	(留) 日本語学
	第 3 分野 芸術と創造	CGE20AC101-J	美と芸術の論理
		CGE20AC102-J	音楽原論
		CGE20AC103-J	映像と表現
		CGE20AC104-J	映像メディア実践入門
		CGE20AC105-J	文芸創作論
	第 4 分野 社会・経済と統治	CGE20AD101-J	国の行政組織
		CGE20AD102-J	現代社会と法
		CGE20AD103-J	経済と社会
		CGE20AD105-J	現代日本の政治
		CGE20AD106-J	現代の国際関係と日本
		CGE20AD107-J	日本経済概説
		CGE20AD108-J	現代の世界経済
		CGE20AD110-J	社会と福祉
		CGE20AD111-J	ソーシャルデザイン論
		CGE20AD112-J	(留) 日本の社会・政治
		CGE20AD113-J	(留) 日本の経済・経営
	第 5 分野 世界の史的構成	CGE20AE101-J	エリアスタディ入門
		CGE20AE102-J	新しい日本史像
		CGE20AE103-J	中国の国家と社会
		CGE20AE104-J	東アジアと朝鮮半島
		CGE20AE105-J	ヨーロッパの歴史
		CGE20AE106-J	アメリカの社会と文化
		CGE20AE107-J	イスラーム世界の多様性
	第 6 分野 自然・科学と人類	CGE20AF101-J	科学的な見方・考え方
		CGE20AF102-J	宇宙科学
		CGE20AF103-J	地球科学
		CGE20AF104-J	生命科学 (分子と生命)
		CGE20AF105-J	生命科学 (生物と生態系)
		CGE20AF106-J	材料と化学
		CGE20AF107-J	現代環境論
		CGE20AF108-J	科学と技術の歴史
		CGE20AF109-J	生命科学と倫理
		CGE20AF110-J	近現代の科学技術
		CGE20AF111-J	(留) 日本の自然・科学技術

科目分野			科目ナンバリング	科目名
教養科目	教養基盤科目 (A 群)	第 7 分野 数理と情報	CGE20AG101-J	数理の世界
			CGE20AG102-J	情報の数理
			CGE20AG103-J	情報科学
			CGE20AG104-J	情報技術と社会
			CGE20AG105-J	統計学
			CGE20AG106-J	データサイエンス・AI 基礎
			CGE20AG107-J	データエンジニアリング基礎
教養科目	国際教養科目 (B 群)	国際教養科目区分	CGE20BA101-B	Liberal Arts Seminar
			CGE20BA102-E	Introduction to Law
			CGE20BA103-E	Modern World History
			CGE20BA104-E	Japan and the West
			CGE20BA105-E	Introduction to Economics
			CGE20BA106-E	Kyoto and the Japanese Arts
			CGE20BA107-E	Special Lecture
			CGE20BA108-E	Introduction to Linguistics
			CGE20BA109-E	Introduction to Anthropology
			CGE20BA110-E	Introduction to Natural Science
			CGE20BA111-E	Introduction to Humanities
			CGE20BA112-E	Introduction to the United Nations
			CGE20BA113-E	Introduction to Peace Studies
			CGE20BA114-E	Introduction to Gender Studies
			CGE20BA115-E	Introduction to Computational Linguistics
			CGE20BA116-E	History of Computing
			CGE20BA117-E	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities
			CGE20BA118-E	Understanding Language
			CGE20BA119-E	Computers in Education
			CGE20BA120-E	Language in Politics
			CGE20BA121-E	Introductory Course to Climate Change and Global Warming
			CGE20BA122-E	Introductory Course to International Project Development
			CGE20BA123-E	Understanding Visual Culture
			CGE20BA124-E	Introduction to Food Culture
			CGE20BA125-E	Cross Border Policy Issues
			CGE20BA126-E	Playing with Playfulness
			CGE20BA127-E	Introduction to Global Justice
			CGE20BA128-E	Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell
		異文化交流科目区分	CGE20BB101-M	Cross-cultural Encounters 1
			CGE20BB102-B	Cross-cultural Encounters 2
			CGE20BB103-E	Cross-cultural Studies
			CGE20BB104-E	Cross-cultural Seminar
			CGE20BB105-E	Non-verbal Communication
		海外留学科目区分	CGE20BC101-M	Academic Skills 1
			CGE20BC102-E	Academic Skills 2
			CGE20BC103-M	Global Engineer Program
			CGE20BC204-E	University of Hawaii Program
			CGE22BC101-E	Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)
			CGE22BC102-E	グローバル社会の体験と理解
			CGE22BC103-E	Academic Communication (Online Learning)
			CGE22BC104-E	Global Project-Based Learning
			CGE22BC105-E	Area Study I
			CGE22BC106-E	Area Study II
			CGE22BC107-E	Area Study (Online Learning)
			CGE22BC108-E	Global Study
教養科目	社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)		CGE20CA101-J	社会と学ぶ課題解決
			CGE20CA102-J	学びとキャリア
			CGE20CA203-J	仕事とキャリア
			CGE20CA204-J	コーオプ演習 (理論)
			CGE20CA205-J	コーオプ演習 (実践)
			CGE20CB101-J	地域参加学習入門
			CGE20CB102-J	現代社会とボランティア
			CGE20CB103-J	現代社会のフィールドワーク
			CGE20CB204-J	シチズンシップ・スタディーズ
			CGE20DA101-J	スポーツの歴史と発展
	スポーツ・健康科目 (D 群)		CGE20DA102-J	スポーツと現代社会
			CGE20DA103-J	スポーツのサイエンス
			CGE20DA104-J	現代人とヘルスケア
			CGE20DB101-J	スポーツ方法実習 I
			CGE20DB102-J	スポーツ方法実習 II
	学際総合科目 (E 群)		CGE20EA101-J	教養ゼミナール
			CGE20EA102-J	異文化間テーマ演習
			CGE20EA303-J	超領域リベラルアーツ
			CGE20EA104-B	特殊講義 (総合)

Ⅱ－7

外国人留学生対象日本語科目

1. 日本語科目一覧

配当回生	科目名	単位数	授業開講期間
1 回生	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	1	秋セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	1	秋セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1	秋セメスター
2 回生以上	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	1	秋セメスター
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	1	秋セメスター

1.1 日本語科目について

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得することができるように、外国語科目として、日本語を履修できるようにしています。

日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語力を身につけるために、必ず1・2回生の間に日本語科目を履修してください。

1.2 クラス編成について

新入生は、1回生で履修する日本語科目（「日本語Ⅶ」の6科目）がクラス指定されます。

1.3 再履修について

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修してください。「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2回生以降、1回生配当科目を再履修しながら2回生配当科目を履修することは認められます。

1.4 単位修得要件について

日本語科目では、単位修得の最低要件として授業への出席回数が定められています。詳細は、オンラインシラバスを確認してください。

Ⅲ．多様な外国語の学び

- 1．初修外国語・既習者対応プログラム（OIC）
- 2．団体受験について
- 3．Beyond Borders Plaza（BBP）について

1. 初修外国語・既習者対応プログラム (OIC)

1.1 意義と目的

初修外国語・既習者対応プログラムは、高校の授業や海外生活などで既に初修外国語を学んだ人（既習者）が継続して学習できるように設定しており、これまで培ってきた力を一層伸ばすことを目的としています。

このプログラムでは、通常の初修外国語履修に代えて、2 回生以上で履修する選択外国語科目などとの組み合わせで履修し、初修外国語の卒業に必要な単位を修得していくことになります。

1.2 対象学部・学科

経営学部（国際経営学科・経営学科）に所属する学生

＊国際経営学科で「2 言語初修重視コース」（英語 12 単位、初修語 18 単位）を選択した学生が対象となります。

＊経営学科で「2 言語コース」（英語 6 単位、初修外国語 6 単位）選択した学生が対象となります。

1.3 対象言語

ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語

1.4 受講資格

下記の①～③のいずれかの資格に該当する学生

- ① 高等学校等で、当該言語について 4 単位相当以上履修し、一定のレベルに到達している学生【参考：1 単位は 45 分授業を週 1 回・1 年間学習するものとする】
- ② 原則として、当該の言語圏で 1 年間以上在住し帰国した学生
- ③ 上記①・②と同等レベルの語学力がある学生

1.5 受講申込

このプログラムを履修するためには、下記①～③の手続きを行ってください。

- ① インターネット入学手続き（Ritsui-Mate）での「履修外国語選択」で、初修外国語既習者対応プログラムで受講を希望する言語を第 1 希望として選択してください。

※第 1 希望で選択していない場合は受講できません。

- ② 「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、締切までに WEB から申し込みをしてください。

- ③ その上で、新入生オリエンテーション期間中に実施する既習者対応プログラムガイダンスに出席してください。オリエンテーション時に履修の適性を判断します。

※受講許可後、各自、受講本登録期間に manaba+R から CAMPUS WEB にログインし、受講登録を行います（このプログラムは、原則として第 1 セメスターから受講します）。

1.6 履修方法

経営学部の初修外国語必修科目（「〇〇語・基礎 1」、「〇〇語・展開 1」…等）を履修せず、同科目に代えて、既習者プログラム用の科目を履修します。既習者プログラム用科目については、「初修外国語・既習者対応プログラム」WEB ページにて掲載、および言語教育センターにて配布します。

【初修外国語・既習者プログラム用科目】

開講期間	科目名	単位数
春	〇〇語・異文化コミュニケーション 1	2
秋	〇〇語・異文化コミュニケーション 2	2
春	映像・CALL で学ぶ〇〇語 1	2
秋	映像・CALL で学ぶ〇〇語 2	2
春	〇〇語で学ぶ文化・社会 1	2
秋	〇〇語で学ぶ文化・社会 2	2
春	時事〇〇語 1	2
秋	時事〇〇語 2	2
春	〇〇語・比較文化論 1	2
秋	〇〇語・比較文化論 2	2
春	〇〇語プレゼンテーション 1	2
秋	〇〇語プレゼンテーション 2	2

1.7 単位未修得の場合

※「〇〇語」の部分に入る語種は、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語のいずれかです。

卒業に必要な単位数を修得していない場合、単位未修得の既習者対応プログラム科目を次年度に再度履修します。「初修外国語単位回復科目」を受講する事はできません。

1.8 受講辞退について

既習者対応プログラムは、通常の正課初修外国語の科目に代えて必修科目として受講する科目のため、受講辞退はできません。

1.9 その他注意事項について

初修外国語既習者対応プログラムの履修者は、2 回生春学期から始まる全学副専攻（OIC）の履修はできません。

経営学部国際経営学科の方で、初修外国語既習者対応プログラムに応募し受講が許可された場合、2 言語初修重視コースから 2 言語英語重視コースへの変更を申請することは、原則として認められません。

既習者対応プログラムの時間割については、言語教育センターの HP から確認することができます。
言語教育センターホームページ
(manaba+R の「経営学部生のページ」→「トップページ」→「経営学部の履修」→「初修外国語・初修外国語既習者対応プログラム」をクリック)

2. 団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP[®] テストと TOEIC[®] L&R IP テストを団体受験として実施しています。

TOEFL ITP[®] テスト

TOEFL[®] テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP[®] テストは、学校などの団体向けプログラムで、主に TOEFL[®] テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

TOEIC[®] L&R IP テスト

TOEIC[®] L & R テストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IP テストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC[®] L & R テストの過去問題を中心に出题されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験は TOEFL ITP[®] テスト、TOEIC[®] L&R IP テスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程・試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ

(manaba+R の「経営学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

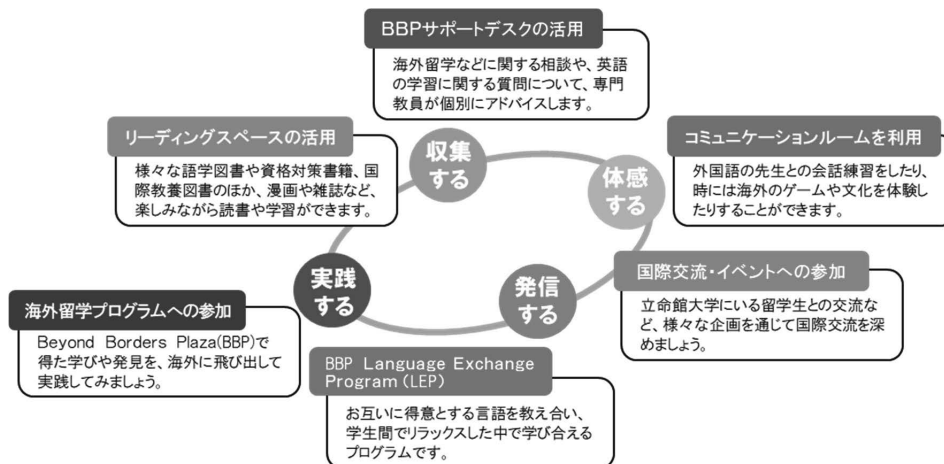
※ TOEIC[®]、TOEIC[®] は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※ TOEIC[®] L & R テストの「L & R」は LISTENING AND READING の短縮形です。

3. Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBP は、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々な Border を超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBP では、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEB サイト】

(manaba+R の「経営学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

<https://www.ritsumei.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス : Beyond Borders Plaza 1・2 階

びわこ・くさつキャンパス : セントラルアーク 2 階

大阪いばらきキャンパス : Beyond Borders Plaza (A 棟 1 階 AN 事務室内)
Room・iCommons・AN 4 階 SALL

〈QR コード〉



IV. 経営学部の特徴ある学び

1. 「Business Studies Abroad I～IV」
2. インテンシブプログラム
 2. 1 「アジアビジネス」プログラム
 2. 2 「産学協同アントレプレナーシップ教育」プログラム
 2. 3 「会計キャリア」プログラム
 2. 4 「産官学連携事業継承教育」プログラム
3. 他学部受講制度
4. 大学院科目早期履修制度

1. 「Business Studies Abroad I～Ⅳ」

※各年度の派遣先やその募集の詳細については募集要項を参照してください。

①「Business Studies Abroad I」(1回生～)

1回生から参加できるプログラムで、夏期休暇1ヶ月を利用して、外国語の授業と現地企業見学や基礎的な経営学の講義を通じて異文化を理解する。

■BSA I 派遣先

国・地域	派遣先大学	実施期間	定員
韓国* (慶尚南道昌原市)	国立昌原大学	8月上旬～8月中旬 (約2週間)	25名
中国 (江蘇省蘇州市)	蘇州大学	8月上旬～9月上旬 (1ヶ月)	20名
ニュージーランド (パーマストンノース)	マッセイ大学	8月上旬～9月上旬 (1ヶ月)	30名

*韓国コースは2025年度より新規開講

②「Business Studies Abroad I Plus」(1回生～)

カリフォルニア大学デービス校のCollege of Business Administrationが実施する「Entrepreneurship and International Business Ritsumeikan Program at UC-Davis」に参加し、ビジネス英語力の向上と多国籍企業で働く際のスキルの向上および革新的な企業の取り組みなどを学ぶ。

■BSA I Plus 派遣先

国・地域	派遣先大学	実施期間
アメリカ (カリフォルニア州)	カリフォルニア大学デービス校	8月上旬～9月上旬 (1ヶ月)

③「Business Studies Abroad II」(2回生～)

主に派遣先大学における1セメスター間を利用して、ビジネススクールや経営学部を有する大学で、専門科目を他言語で理解できる能力を磨く。

■BSA II 派遣先

国・地域	派遣先大学	実施期間	
中国 (大連)	大連外国語大学	夏出発	8月下旬～翌年1月中旬
		春出発	2月下旬～7月中旬
中国 (北京)	対外経済貿易大学	夏出発	8月下旬～翌年1月中旬
		春出発	2月下旬～7月中旬
カナダ (ビクトリア)	カモーションカレッジ	夏出発	8月下旬～12月下旬
ニュージーランド (オークランド)	オークランド工科大学	春出発	2月中旬～6月下旬
タイ (バンコク)	タマサート大学ビジネススクール	夏出発	8月上旬～12月下旬
スウェーデン (ストックホルム)	ストックホルム大学 ビジネススクール	夏出発	8月下旬～翌年1月中旬
フランス (ストラスブール)	ストラスブール大学 EM ストラスブールビジネススクール	夏出発	8月下旬～12月下旬
ドイツ (ブレーメン)	ブレーメン州立経済工科大学	夏出発	9月下旬～翌年3月上旬
ドイツ (アーヘン)	アーヘン応用科学大学	夏出発	9月上旬～翌年2月下旬
		春出発	3月上旬～7月下旬
スペイン (マドリッド)	アルカラ大学	夏出発	8月下旬～翌年1月下旬
イギリス (プレストン)	セントラルランカシャー大学	夏出発	9月中旬～翌年1月下旬

④「Business Studies Abroad Ⅲ」：海外実習（2回生～）

2回生から参加できるプログラムで、英語でビジネスに関する授業を受講するとともに、アメリカ・フロリダ州のウォルト・ディズニー・ワールドなどの企業で実務研修を行い、国際社会で必要とされるビジネス感覚を養う。

■ BSA Ⅲ 派遣先

国・地域	派遣先大学・機関	実施時期		業務内容
アメリカ (フロリダ州オーランド)	バレンシアカレッジ、 ウォルト・ディズニー・ ワールド	夏出発	8月～1月 (6ヶ月程度)	ウォルト・ディズ ニー・ワールドにて インターンシップ
		春出発	2月～8月 (6ヶ月程度)	

⑤「Business Studies Abroad Ⅳ」（2回生～）

主に派遣先大学における2～3セメスター間を利用して、ビジネススクールや経営学部を有する大学で、経営学に関する専門科目を他言語で受講しながら、仕事で使える高度なコミュニケーション能力や国際経営の専門知識の修得を目指す。

■ BSA Ⅳ 派遣先

国・地域	派遣先大学	実施期間	
中 国 (大連)	大連外国語大学	夏出発	8月下旬～翌年7月中旬
		春出発	2月下旬～翌年1月中旬
中 国 (北京)	対外経済貿易大学	夏出発	8月下旬～翌年7月中旬
		春出発	2月下旬～翌年1月中旬
		春出発(1.5年)	2月下旬～翌年7月中旬
カナダ (ビクトリア)	カモーンソンカレッジ	夏出発	8月下旬～翌年4月下旬
タイ (バンコク)	タマサート大学 ビジネススクール	夏出発	8月上旬～翌年5月下旬
スウェーデン (ストックホルム)	ストックホルム大学 ビジネススクール	夏出発	8月下旬～翌年6月上旬
フランス (ストラスブール)	ストラスブール大学 EM ストラスブールビジネススクール	夏出発	8月下旬～翌年5月上旬
ドイツ (ブレーメン)	ブレーメン州立経済工科大学	夏出発	9月下旬～翌年7月下旬
ドイツ (アーヘン)	アーヘン応用科学大学	夏出発	9月上旬～翌年7月下旬
スペイン (マドリード)	アルカラ大学	夏出発	8月下旬～翌年6月下旬
イギリス (プレストン)	セントラルランカシャー大学	夏出発	9月中旬～翌年5月下旬
イギリス (レディング)	レディング大学	夏出発	9月上旬～翌年4月上旬

2. インテンシブプログラム

2.1 「アジアビジネス」プログラム

経営学部では、2022 年度以降の入学生に対して、学科やコースに関らず、全学部生を対象に 4 種類の特別教育プログラム「インテンシブプログラム」を設定しています。これらのプログラムは、基本的に 2 回生からの「学びを広げる」ためのものです。積極的な参加を期待しています。

このプログラムは、将来的にアジアのビジネスに精通し、新しいビジネスを発見し創造できる人材を育成することを目的としています。科目は、通常の講義に加えて、留学生とともに学ぶセミナー授業、短期間の海外企業訪問、海外インターンシップで構成されています。これらの科目を、一部または全部修得することでプログラム修了証が授与されます。

	立命館大学での学び	アジアでの学び（全学・経営学部）
初級	近代アジア経済史、アジア経済論、アジア経営論、日中ビジネス論、プログラム特殊講義（アジアビジネス）、プロジェクト研究（GBL 型）のうち 3 科目	—
中級	上記 3 科目	アジア圏派遣の短期プログラム
上級	上記 3 科目	アジア圏派遣の中長期プログラム

2.2 「産学協同アントレプレナーシップ教育」プログラム

経営学部 2 回生以上からの履修を対象とした教育プログラムであり、経営学部が大阪いばらきキャンパスで展開する特色ある教育の一つとして「産学協同アントレプレナーシップ教育プログラム」を提供します。このプログラムは、自立的で創造的な人材＝起業家精神（アントレプレナーシップ）に満ちた人材の輩出を目的としています。

本プログラムは「プログラム科目」4 科目と「プログラム発展科目」1 科目で構成されます。

【プログラム科目】

科目	単位	回生	時期
アントレプレナーシップ論	2	2 回生以上	春学期
ベンチャー企業論	2	2 回生以上	秋学期
事業開発論	2	2 回生以上	秋学期
ベンチャーファイナンス	2	3 回生以上	春学期

【履修方法】

プログラム修了要件	以下の要件を満たした場合、希望者のみ申請書に基づき修了証が授与されます。 ・プログラム科目の 4 つの科目を全て履修し、単位を修得すること。
-----------	---

【プログラム発展科目】

アントレプレナーシップの学びをさらに広げるため、小集団科目である「プロジェクト研究」をプログラム発展科目として指定しています。プログラム発展科目はプログラム修了要件ではありませんが、プログラムが指定するクラスを履修することで、より実践的なアントレプレナーシップの学修を進めることができます。

2.3 「会計キャリア」プログラム

このプログラムは、日商簿記1級合格を通じて、会計キャリアの基礎を築くプログラムです。日商簿記1級取得は、公認会計士や税理士、国税専門官といった会計プロフェッショナルへの登竜門となっているほか、一般企業への就職にも非常に有利といわれています。1回生次開講の「簿記入門Ⅰ」「簿記入門Ⅱ」または高校時代の学習において、日商簿記2級レベルの知識を修得した学生を対象にしています。

科目	配当学期	内容	単位
プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅰ	1 (4～6月)	日商1級工簿・原計Ⅰ	2
プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅱ	1 (6～7月)	日商1級工簿・原計Ⅱ	2
プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅲ	1 (8～9月)	日商1級商簿・会計Ⅰ	2
プログラム特殊講義 (会計キャリア)Ⅳ	2 (9～11月)	日商1級商簿・会計Ⅱ	2

日商簿記検定 受験に向けて

(1) 簿記入門Ⅰ

日本商工会議所簿記検定3級の取得を目指す「簿記入門Ⅰ」を開講します。受験に間に合うよう週2回、1回2時限連続の変則的時間割で授業を行います。検定試験終了後は、日本商工会議所簿記検定2級の取得を目指した学修を進めます。

講義スケジュールなどについては、「履修・登録の手引き（別冊）」およびシラバスを参照してください。

(2) 簿記入門Ⅱ

「簿記入門Ⅰ」で学修した内容をふまえ、日本商工会議所簿記検定2級の取得を目指す、「簿記入門Ⅱ」を開講します。「簿記入門Ⅰ」と同様に週2回、1回2時限連続の変則的時間割で授業を行います。講義スケジュールなどについては、「履修・登録の手引き（別冊）」およびシラバスを参照してください。

2.4 「産官学連携事業継承教育」プログラム

将来、親族の事業を継承し発展を志す有為な人材や中小企業に関心ある人材（中小企業をサポートする金融機関への就職志望や地域の中小企業振興を目指す公務員など）を育成し、日本のみならず東アジア全域の地域経済・アジア経済・世界経済を支える経営者を育成することを目的とするプログラムです。

履修指定の科目を履修し、所定の科目群の全部もしくは一部を単位修得した学生には、産官学連携事業継承教育プログラムの修了認定を行います。

【プログラム科目】

時期	履修科目
2回生春学期	プログラム特殊講義「事業継承経営：大阪府中小企業家同友会寄付講座」、プログラム特殊講義「事業継承概論」
2回生秋学期	プロジェクト研究（産学共創型）「社史コンテスト」
3回生以上	人的資源管理論、中小企業論、生産システム論

【履修方法】

プログラム修了要件	以下の要件を満たした場合、修了証が授与されます。 ・プログラム特殊講義「事業継承概論」を必修とし、プログラム特殊講義「事業継承経営：大阪府中小企業家同友会寄付講座」、プロジェクト研究（産学共創型）「社史コンテスト」、人的資源管理論、中小企業論、生産システム論より2科目の単位修得をすること。なお、プロジェクト研究（産学共創型）「社史コンテスト」の履修は、プロジェクト研究（産学共創型）の履修ならびに正課外プログラム「社史コンテスト」への参加とする。
-----------	---

3. 他学部受講制度

立命館大学では、総合大学としてのメリットを活かし、他学部で開講されている専門科目を受講することができます。これを、他学部受講制度といいます。ただし、安易に他学部受講を希望するのではなく、あくまでも学修計画に基づいて受講してください。（詳細は下表を参照）

全ての専門科目が受講できるわけではありません。また、受講定員を定めている科目もあります。

受講資格	3 回生以上
登録可能単位数	他学部受講科目は、既に修得した単位数も含め、登録は10 単位までしかできません。
単位認定	10 単位を上限に卒業に必要な単位（他学科・他コース専門科目）として認められます。
登録方法	受講定員制限の有無により、登録方法が異なります。
受講定員制限がある場合	抽選科目登録をしなければなりません。抽選科目登録期間内に申込みをしてください。許可された科目は事務室で登録しますので、自身で受講登録する必要はありません。
受講定員制限が無い場合	本登録期間内に自身で受講登録をしてください。
受講可能科目の確認	manaba+R「経営学部生のページ」→「経営学部の履修」→「他学部受講について」で確認してください。科目の内容については、シラバスで確認できます。
抽選科目登録期間および抽選結果確認方法	「履修・登録の手引き（別冊）」参照

4. 大学院科目早期履修制度

学部での学習を基礎に、大学院経営学研究科で専門的な学習を深めることを目的に、経営学研究科の授業を科目等履修生として早期履修を認める制度です。

本制度により大学院科目を早期に履修することで、大学院進学を希望する皆さんが目的意識と計画性をもって大学院進学への準備を十全に行い、難関分野への挑戦や優れた修士論文を執筆することが期待されます。

本学大学院進学を視野に入れ、大学院入学前の時期を有効に使って、更に学習を進めたいと考えている人は、本制度を積極的に活用してください。

4.1 対象者（履修要件）

以下の3つの要件いずれも満たしている学生が対象です。

- ① 本学各学部の4 回生以上に在学する者（各年度の4 月1 日現在）
- ② 本学大学院経営学研究科への進学を希望する者
- ③ 前年度までに100 単位以上（教職科目を除く）を修得し、かつそのGPA が2.3 以上であり、大学院科目の履修に足る学力を備えていると判断できる者（学部の既修得科目等により判断します。）

4.2 履修について

（1）履修の上限

4 単位上限（各学期）

本制度で受講登録した単位は、学部の年間受講登録上限単位数に含まれません。

（2）履修可能な科目

経営学研究科の基幹科目、展開科目、研究方法科目、英語開講科目および特殊講義で、各年度春・秋学期開講の科目。

※詳細は、募集要項で確認してください。

（3）問い合わせ先

OIC 学びステーション

※年度により制度の変更もありえますので、応募前に OIC 学びステーションまでお問い合わせください。

4.3 手続きについて

(1) 手続き期間

詳細は、募集要項で確認してください。

(2) 費用

選考手数料、登録料および科目履修料は、免除となります。

4.4 成績評価・単位認定

- (1) 成績評価は、学部学生であっても、通常の大学院科目の基準で行います。
- (2) 本制度により修得した単位は、学部の卒業に必要な単位に含まれません。ただし本学大学院経営学研究科に入学後、申請に基づき、8単位を上限として単位認定します。(入学時に別途手続きが必要)

経営学研究科への進学を希望される方へ

経営学研究科の研究内容や授業、入試などに興味のある方は、ぜひ OIC 学びステーションまでお問い合わせください。また大学院入試説明会も年に複数回開催しており、4回生だけでなく、1～3回生の皆さんの参加もお待ちしております。

経営学研究科ホームページもご覧ください。<http://www.ritsumei.ac.jp/gsba/>

V. 学部横断プログラム

1. 海外留学
2. 大学間単位互換制度

1. 海外留学について

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

1.1 海外留学を計画するにあたって

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保護者と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集・選考を行いますので、日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定試験の受験など、早めの準備を心掛けましょう。なお、長期留学に参加する場合は、その時期や期間、履修状況によって4年間での卒業ができなくなる可能性があります。事前に学部事務室または学びステーションで相談したうえで、海外留学の計画を行いましょう。

1.2 海外留学プログラムの種類

	全学募集の海外留学プログラム	各学部・教学機関の海外留学プログラム
主催	国際教育センター	各学部・教学機関
対象	全学部学生（一部を除く）	所属学部学生（一部他学部生も可）
区分	留学を通じて「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的・目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、以下の通り、留学の「ねらい」ごとに海外留学プログラムを類型しています。 〈留学の「ねらい」〉 ① グローバルな体験を通じ世界を知る ② アカデミックな外国語を習得する ③ 特定の課題について解決策を探る ④ 世界の地域を深く知る ⑤ 専門的な内容を外国語で学ぶ	学部教学に関連した内容のプログラムが展開されています。 学部によっては、中期間／長期間のプログラムも提供されています。 詳細は、主催する学部または教学機関にお問い合わせください。

* 各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどで確認してください。

* 上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

1.3 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。 また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、OIC学びステーションに相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

* 1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 11.留学」を参照してください。

* 2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 4.受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同単位プログラム（DUDP）は除く）。

* 3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 6.成績および単位授与・認定」を参照してください。

* 4：休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 9.休学」を参照して、事前に OIC 学びステーションに相談してください。

1.4 大学で得られる海外留学に関する情報について

①全学募集の海外留学プログラムについては「海外留学プログラムホームページ」、学部・教学機関の海外留学プログラムについては各学部・教学機関のホームページから確認してください。

② Beyond Borders Plaza (BBP) では、海外留学に役立つ情報発信や企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plaza のホームページから確認してください。
〈海外留学プログラムホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページには以下の QR コードからアクセスできます〉

【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plaza ホームページ】



③国際教育センター

- ・「海外留学の手引き」などのパンフレットを配布しています。
- ・過年度参加者の報告書など、様々な留学関連の資料を常設しています。
- ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
- ・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

2. 大学間単位互換制度

2.1 大学コンソーシアム 京都単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、京都地域を中心とする他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。文化、芸術、政治、経済、自然科学などはほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されており、皆さんの幅広い関心と興味に応じて、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

(1) 主なスケジュール

- ・出願の詳細発表（3月下旬）：manaba+R にて案内します。
※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと
- ・履修希望科目の出願（4月上旬のみ〈追加募集なし〉）：指定の WEB 上から、毎年度合計 2 科目まで出願可
- ・履修許可発表（4月下旬）：manaba+R で発表、履修許可された科目は受講登録制限外で登録
- ・科目開設大学への履修手続き（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- ・科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能。
- ・成績発表（3月上旬）：CAMPUS WEB に掲載

(2) 単位認定

- ・認定時期：秋学期
- ・認定される区分：教養科目
- ・認定される科目名：学部によって異なります。詳細は、出願の詳細発表時に確認してください。
- ・評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

2.2 立命館アジア太平洋大学 (APU) 交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

（1）交流学生プログラム

①制度の概要

半年（春学期／秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- ・10月頃／4月頃 募集ガイダンス
- ・11月／5月頃 交流プログラムへの出願
- ・12月／7月頃 履修者許可発表および許可者ガイダンス
- ・3月下旬／9月中旬頃 出発
- ・4月／9月下旬頃 APUで履修開始

③単位認定

- ・認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・認定される区分：経営学部の指定による
- ・認定評価：T評価

（2）サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏集中講義）科目を受講できるプログラムです。

受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- ・7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏集中講義）科目受講期間
- ・9月中旬頃 APUで成績発表
- ・9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・認定時期：春学期
- ・認定される区分：経営学部の指定による
- ・認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

（3）詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

Ⅵ. 全学副専攻科目

1. 全学副専攻履修について

1. 全学副専攻履修について

1.1 全学副専攻(外国語コミュニケーションコース)とは

全学副専攻(外国語コミュニケーションコース)は、学部の専門科目を履修しながら、同時に教養科目と外国語科目で形成した学力や関心を深めるために、実用的な外国語能力の養成、専門分野以外の学問領域、専門分野と他の学問領域との学際分野に関する履修を行うことで、社会で活躍できる実践的な力量を形成することを目標とします。

外国語の実践的な運用能力を高めることはもちろん、各言語圏の社会や文化への理解を深めることを通して、国際社会において活躍し得る力量の獲得を目指します。

1.2 開設コース・募集人数・対象学部／学科／コース・募集時期・履修開始時期

副専攻コース	募集人数(予定)	対象回生	対象学部・学科・コース	募集時期	履修開始時期
ドイツ語コミュニケーションコース	35名	2回生～	経営学部 経営学科 2言語コースのみ	1回生 秋学期	2回生 春学期
フランス語コミュニケーションコース	35名				
中国語コミュニケーションコース	35名				
スペイン語コミュニケーションコース	35名				
朝鮮語コミュニケーションコース	35名				

*募集人数については、初修外国語選択者数に応じて変動する場合があります。

1.3 応募資格

1回生の必修初修外国語において、応募する言語を履修していること。

ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある(その言語圏での留学・滞在経験を含む)場合は、個別に応募の可否を判断します(語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります)。

詳細は10月頃に発行される募集要項で確認してください。

※母語話者レベルの語種は選択できません(留学生を含む)。

※2回生以上の応募は認められません。

1.4 修得が必要な単位とその取り扱い

選択したコースに設置されている科目の中から、卒業までに最低修得単位数を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定されます。

卒業に必要な単位として 認定されるのに必要な 最低修得単位数	経営学部での認定分野
12単位	外国語科目

12単位以上修得した場合、卒業時に修了証を発行します。

1.5 科目一覧

配当年次	科目名	授業開講期間	単位数
1年次 (2回生以上配当)	(副)〇〇語・異文化コミュニケーション1	春学期	2
	(副)映像・CALLで学ぶ〇〇語1	春学期	2
	(副)〇〇語で学ぶ文化・社会1	春学期	2
	(副)〇〇語・異文化コミュニケーション2	秋学期	2
	(副)映像・CALLで学ぶ〇〇語2	秋学期	2
	(副)〇〇語で学ぶ文化・社会2	秋学期	2
2年次 (3回生以上配当)	(副)時事〇〇語1	春学期	2
	(副)〇〇語・比較文化論1	春学期	2
	(副)〇〇語プレゼンテーション1	春学期	2
	(副)時事〇〇語2	秋学期	2
	(副)〇〇語・比較文化論2	秋学期	2
	(副)〇〇語プレゼンテーション2	秋学期	2

※〇〇には、ドイツ・フランス・中国・スペイン・朝鮮が入ります。

1.6 履修上の注意点

- (1) 全学副専攻を選択・登録できるのは1コースのみです。またコースの途中での変更は一切認められません。
- (2) 全学副専攻の登録単位数は、経営学部で定められている「受講登録制限単位数」に含まれます。
- (3) 全学副専攻の再履修クラスはありません。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に同一科目または未履修の科目を受講してください。
- (4) 受講申込後にやむを得ず途中で全学副専攻の履修を辞退する場合には、言語教育センターで「全学副専攻辞退願」を受け取り、提出してください。
- (5) 初修外国語既習者対応プログラムおよびDUDP参加予定者は、全学副専攻に応募できません。

〈海外留学（協定・個別合意）での単位認定〉

副専攻履修言語にかかわる海外留学（協定・個別合意）に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により8単位を上限に副専攻の単位として認定することができます。申請は、海外留学（協定・個別合意）の帰国後、速やかに経営学部事務室で行ってください。なお、一度確定した単位を遡って「単位認定申請」することはできません。

〈全学海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」の単位授与〉

全学海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」に参加した場合、全学副専攻科目として単位認定を行いません。教養科目で単位授与します。

全学副専攻の詳細については、言語教育センターの全学副専攻のページを確認してください。

言語教育センターホームページ

(manaba+Rの「経営学部生のページ」→「トップページ」→「経営学部の履修」→「全学副専攻プログラム（初修外国語）」をクリック)

VII. 学生への援助制度

1. 学生への援助制度

1. 学生への援助制度

1.1 小集団教育推進補助費

立命館大学では、小集団クラスを対象として以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

立命館大学では、学びの基礎単位となる基礎演習、研究入門、演習、卒業研究のクラス・ゼミを教学の基軸におき、①「小集団教育の単位」と②「大学自治の単位」としての性格をもつものとして位置づけています。小集団教育推進補助費は、この2つの位置づけをもつクラス・ゼミの集団的学習と自治活動への援助を主要な目的とし、各クラス・ゼミなどで使用できます。詳細は [manaba+R「経営学部生のページ」](#) → [「トップページ」](#) → [「学費・奨学金・補助金・経営学会」](#) → [「小集団教育推進補助費、学びのコミュニティ奨励奨学金（正課）」](#) に掲載されている手引きをご確認ください。

VIII. 経営学部学部則

学部則については、manaba+R「経営学部生のページ」に記載しています。
manaba+R「経営学部生のページ」→「トップページ」→「経営学部の履修」→「学部則」をクリック

